

令和元年度芸術系教科等担当教員等 全国研修会(京都会場)実施要項

1 目 的

芸術系教科等担当教員等に対し、学習指導要領の趣旨を踏まえた理論研修・実践研修を実施し、指導方法や評価方法等の工夫改善等につなげ、初等中等教育の芸術系教科等における指導の充実に資することを目的とする。

2 主 催 文化庁、全国芸術系大学コンソーシアム及び協力大学

3 共 催 京都市

4 開催期日 令和元年12月13日(金)～12月14日(土)

5 日 程

【第1日】(12月13日)

	9:30	10:00		11:30	12:30		13:30	13:50		15:50	16:10	17:00
共通	受付	開 会 式	特別講演	昼 食	全体研修	休 憩	理論研修	休 憩	まとめ			

【第2日】(12月14日)

	9:10	9:40		11:10	12:40	13:15		15:00	16:00	
図画工作	受付	文化財鑑賞 元離宮 二条城	昼食 移動	講 義 ①	講義②、演習	講義③、討議				※含むアンケート記入

	9:10	9:40		11:10	12:40	13:15		15:00	16:00	
美術	受付	文化財鑑賞 元離宮 二条城	昼食 移動	講 義 ①	講義②、演習	講義③、討議				※含むアンケート記入

	9:30	10:00	10:15		12:15	13:15		15:15	16:00	
小学校 音楽	受付	全体 説明会	実践研修① (音楽づくり)	昼 食	実践研修② (リコーダー奏法)	討議				※含むアンケート記入

	9:30	10:00	10:15		12:15	13:15		15:15	16:00	
中学校 音楽	受付	全体 説明会	実践研修② (リコーダー奏法)	昼 食	実践研修① (音楽づくり)	討議				※含むアンケート記入

6 カリキュラム内容

- 初日の研修は、学習指導要領に係る全体研修及び理論研修(教科・科目別)とする。具体的には、学習指導要領の趣旨を踏まえた芸術系教科等の意義、役割、今後の方向性、芸術系教科等の研修と授業研究の在り方、芸術系教科等における学習評価、社会に開かれた芸術系教科等の可能性と課題等とし、講師は文部科学省の視学官及び文化庁の教科調査官等が担当する。
- 実践研修は、学習指導要領の趣旨やねらいの実現を目指す授業を展開するための実践手法を中心とした研修プログラムとする。具体的には、「A表現」及び「B鑑賞」の授業実践と結び付いた実技研修、教材研究の方法、実践事例を通じた指導法の検討、指導に生きる学習評価の実際等とし、講師は芸術系大学教員や広く活躍している芸術家等が担当する。
- 理論研修及び実践研修の分科会は、次のとおり開催する。

小学校及び中学校の芸術系教科

- 小学校音楽科、
- 小学校図画工作科、
- 中学校音楽科、
- 中学校美術科

7 会場等

【第1日】(12月13日) ※全4分科会合同実施

会場：メルパルク京都（京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路676番13）

担当：京都市立芸術大学（連携推進課 TEL：075-334-2204）

【第2日】(12月14日) ※研修内容は別途通知

分科会	会場
小学校音楽科	京都市総合教育センター 京都市下京区河原町通松原上ル二丁目富永町344番地
中学校音楽	
小学校図画工作科	元離宮二条城 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541 キャンパスプラザ京都 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路939
中学校美術科	

担当：京都市立芸術大学（連携推進課 TEL：075-334-2204）

8 参加者

(1) 受講資格

- ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、芸術系教科等を担当している者又は予定している者（非常勤講師等を含む）
- ・都道府県、指定都市教育委員会の指導主事等
- ・原則として2日間の研修に参加できる者

(2) 受講人数

- ・各都道府県、指定都市から全分科会を含め8～12名程度
※人数はすでに提出した東京会場参加者も含めた目安
※各分科会の受入れ可能人数を超えた場合は、調整することがあります。

(3) 各分科会の予定定員

分科会名	定員	分科会名	定員
小学校音楽科	40	中学校音楽科	40
小学校図画工作科	40	中学校美術科	40

(4) 参加希望報告

京都会場の参加希望者について、「参加希望者の報告等について」（別紙3）により、令和元年11月22日（金）までに、文化庁参事官（芸術文化担当）付学校芸術教育室宛てに報告する。

8 京都会場参加者の決定

- (1) 文化庁は、京都会場の研修参加者を決定し、12月3日（火）を目途に、都道府県及び指定都市教育委員会等に対して、通知するものとする。
- (2) 研修参加希望者が多数の場合は、文化庁で調整の上、決定する。

9 その他

- (1) 本研修会は、目的に基づき芸術系教科等に関する理論及び実践研修を中心とするものであることを理解した上で受講すること。
- (2) 本研修終了時に、受講者アンケート等を行う。また、本研修会の参加後、本研修会の成果をどのように活用したか等について、報告を求めることがある。
- (3) 研修会参加に係る服務については、各都道府県、所属校等の判断によるものとする。
- (4) 宿泊が必要な場合は各自で準備するものとする。

令和元年度芸術系教科等担当教員等 地区ブロック研修会実施要項

1 目 的

芸術系教科等担当教員等に対し、学習指導要領の趣旨を踏まえた理論研修・実践研修を実施し、指導方法や評価方法等の工夫改善等につなげ、初等中等教育の芸術系教科等における指導の充実に資することを目的とする。

2 主 催 文化庁、全国芸術系大学コンソーシアム及び協力大学

3 開催期日、会場、研修内容、予定定員等

「地区ブロック研修会の研修内容」(参考)のとおり

4 カリキュラム内容

本研修は、芸術系大学及び教員養成大学の教員等の指導のもと、芸術系教科等の授業研究の在り方や指導方法や評価方法の工夫改善、各学校種における芸術系教科等の指導の充実に向けた取組等について理解を深めることを目的とし、地区6ブロック(北海道・東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄)において開催する。

5 参加者

(1) 受講資格

- ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、芸術系教科等を担当している者又は予定している者(非常勤講師等を含む)
- ・都道府県、指定都市教育委員会の指導主事等
- ・原則として研修の全日程に参加できる者

(2) 受講人数

- ・各都道府県、指定都市等から
 - ① 所属するブロックの研修会へ 8～15名程度
 - ② 所属するブロック以外の研修会へ 0～5名程度

(3) 参加希望報告

地区ブロック研修会の参加希望者について、「参加希望者の報告等について」(別紙3)により

- ①研修番号1～9の研修については、令和元年10月17日(木)までに、
- ②研修番号10～21の研修については、令和元年11月22日(金)までに、文化庁参事官(芸術文化担当)付学校芸術教育室宛てに報告する。

※研修番号は「令和元年度芸術系教科等担当教員等研修会 研修日程一覧」(別紙4)参照

6 参加者の決定

(1) 文化庁は、各地区ブロック研修会の参加者を決定し、

- ①研修番号1～9の研修については、令和元年10月22日(火)を目途に、
 - ②研修番号10～21の研修については、令和元年12月3日(火)を目途に、都道府県及び指定都市教育委員会等に対して、通知するものとする。
- (2) 研修参加希望者が多数の場合は、文化庁で調整の上、決定する。

7 その他

- (1) 本研修会は、目的に基づき芸術系教科等に関する理論及び実践研修を中心とするものであることを理解した上で受講すること。
- (2) 本研修終了時に、受講者アンケート等を行う。また、本研修会の参加後、本研修会の成果をどのように活用したか等について、報告を求めることがある。
- (3) 研修会参加に係る服務については、各都道府県、所属校等の判断によるものとする。
- (4) 宿泊が必要な場合は各自で準備するものとする。

令和元年度芸術系教科等担当教員等研修会

研 修 日 程 一 覧 (日程順)

研修番号	開催日	地区等	対象校種・教科等	開催地：担当
全国研修会	10/ 8(火) 9(水)	東京会場	小中高・全	東京他：東京藝術大学他
	12/13(金) 14(土)	京都会場	小中 ・音、図、美	京都：京都市立芸術大学
1	10/29(火)	北海道・東北	中高・音楽	宮城：東京藝術大学
2	11/ 2(土)	中国・四国	中高・美術	広島：広島市立大学
3	11/23(祝) 24(日)	関東・甲信越	高・書道	東京：東京学芸大学
4	11/29(金)	九州・沖縄	中高・美術、工芸	沖縄：沖縄県立芸術大学
5	12/ 2(月) 3(火)	北海道・東北	小 ・図画工作	秋田：秋田公立美術大学
6	12/ 2(月) 3(火)	北海道・東北	中高・美術、工芸	秋田：秋田公立美術大学
7	12/ 6(金)	九州・沖縄	中高・美術	佐賀：佐賀大学
8	12/ 9(月) 10(火)	近畿	高・書道	大阪：大阪教育大学
9	12/10(火) 24(火)	東海・北陸	高・書道	愛知：愛知教育大学
10	12/21(土)	関東・甲信越	高・工芸	東京：東京藝術大学
11	12/25(水)	関東・甲信越	中高・音楽	埼玉：東邦音楽大学
12	12/26(木) 27(金)	東海・北陸	小 ・音楽	愛知：名古屋音楽大学
13	12/26(木)	東海・北陸	中高・美術	静岡：常葉大学
14	12/26(木)	九州・沖縄	小中高・音楽	熊本：東京藝術大学
15	1/10(金)	東海・北陸	中高・音楽	愛知：愛知県立芸術大学
16	1/11(土)	近畿	小中 ・音楽	大阪：東京藝術大学
17	1/23(木) 24(金)	関東・甲信越	中高・美術、工芸	東京：女子美術大学
18	1/25(土)	中国・四国	中高・音楽	徳島：徳島文理大学
19	2/13(木)	東海・北陸	小 ・図画工作	金沢：金沢美術工芸大学
20	2/22(土)	中国・四国	小 ・音楽	広島：エリザベト音楽大学
21	3/ 3(火) 4(水)	九州・沖縄	高・書道	福岡：福岡教育大学

令和元年度芸術系教科等担当教員等研修会

研修日程一覧(地区別)

地区等	研修番号	開催日		対象校種・教科等	開催地：担当
全国研修会(東京会場)		10/ 8(火)	9(水)	小中高・全	東京他：東京藝術大学他
全国研修会(京都会場)		12/13(金)	14(土)	小中・音、図、美	京都：京都市立芸術大学
北海道・東北	5	12/ 2(月)	3(火)	小・図画工作	秋田：秋田公立美術大学
	1	10/29(火)		中高・音楽	宮城：東京藝術大学
	6	12/ 2(月)	3(火)	中高・美術、工芸	秋田：秋田公立美術大学
関東・甲信越	11	12/25(水)		中高・音楽	埼玉：東邦音楽大学
	17	1/23(木)	24(金)	中高・美術、工芸	東京：女子美術大学
	10	12/21(土)		高・工芸	東京：東京藝術大学
	3	11/23(祝)	24(日)	高・書道	東京：東京学芸大学
東海・北陸	12	12/26(木)	27(金)	小・音楽	愛知：名古屋音楽大学
	19	2/13(木)		小・図画工作	金沢：金沢美術工芸大学
	15	1/10(金)		中高・音楽	愛知：愛知県立芸術大学
	13	12/26(木)		中高・美術	静岡：常葉大学
	9	12/10(火)	24(火)	高・書道	愛知：愛知教育大学
近畿	16	1/11(土)		小中・音楽	大阪：東京藝術大学
	8	12/ 9(月)	10(火)	高・書道	大阪：大阪教育大学
中国・四国	20	2/22(土)		小・音楽	広島：エリザベト音楽大学
	18	1/25(土)		中高・音楽	徳島：徳島文理大学
	2	11/ 2(土)		中高・美術	広島：広島市立大学
九州・沖縄	14	12/26(木)		小中高・音楽	熊本：東京藝術大学
	4	11/29(金)		中高・美術、工芸	沖縄：沖縄県立芸術大学
	7	12/ 6(金)		中高・美術	佐賀：佐賀大学
	21	3/ 3(火)	4(水)	高・書道	福岡：福岡教育大学

全国研修会（京都会場）

令和元年度 芸術系教科等担当教員等 全国研修会（京都会場）実践研修の内容

小学校 音楽科

日程	令和元年 12月 14日(土) 10:00~16:00		
会場	京都市総合教育センター (担当:京都市立芸術大学) (住所)京都市下京区河原町通松原上ル2丁目富永町344番地		
講師	岡田加津子(京都市立芸術大学教授), 北村千絵(京都市立芸術大学非常勤講師) 秋山 滋(京都市立芸術大学非常勤講師), 秋山麻子(ピアニスト)		
対象	小学校の音楽科担当教員等	定員	40名

<研修プログラムの内容>

テーマ	表現の幅を広げるための、楽器の効果的な活用法		
概要	<p>【音楽づくり／岡田】珍しい楽器に触れ、新しい音と出会い、奏法をも自ら開拓していく経験を通して、音楽を自由にデザインする。その中で音をどのように選択し、どのように組み合わせていくかを考え、その結果どのような音楽が生まれてくるかを体験・実感する。 学習指導要領との対応:「A表現(3)アイウ」</p> <p>【リコーダー奏法／秋山】リコーダーという楽器の持つ、本来の音楽的、音響的なポテンシャルを最大限に引き出し、そこから様々な音楽の多様性を児童が発見できるように導く方法を考察する。また楽器と楽曲の相互性を探り、今後の音楽表現に有益な手段となるように理解を深めていく。 学習指導要領との対応:「A表現(2)アイウ」</p>		
内容と方法	<p>【音楽づくり／岡田】バシエの教育音具や創作楽器、声などを用い、即興的に表現することから始めて、音楽づくりに発展させていく。</p> <p>【リコーダー奏法／秋山】リコーダーの正しい扱い方や基礎的な演奏法を改めて見直し、音程と運指との関わり等を学びながら、美しく楽しく表現することを試みる。</p>		
到達目標	<p>【音楽づくり／岡田】音を模索することを楽しみ、既存の音楽概念の枠を出て、新しい発見ができること</p> <p>【リコーダー奏法／秋山】個々の音楽表現を豊かにすること</p>		
スケジュール	9:30~10:00	受付	
	10:00~10:15	全体説明	
	10:15~12:15	【音楽づくり】	
	12:15~13:15	昼食・休憩	
	13:15~15:15	【リコーダー奏法】	
	15:15~16:00	ふりかえり・座談会・アンケート記入	
教材・持ち物等	<p>【音楽づくり】床に座ったり、しゃがんだりできるような、動きやすい服装</p> <p>【リコーダー奏法】ソプラノリコーダー</p>		
特記事項			

全国研修会(京都会場)

令和元年度 芸術系教科等担当教員等 全国研修会(京都会場)実践研修の内容

小学校 図画工作科

日程	令和元年 12月 14日(土) 9:40~16:00		
会場	元離宮二条城(午前), キャンパスプラザ京都(午後)		(担当:京都市立芸術大学)
	(住所) 二条城:京都市中京区二条通堀川西入二条城町541, キャンパスプラザ:京都市下京区西洞院通塩小路下る		
講師	川嶋 渉 京都市立芸術大学美術学部 教授 奥村美佳 京都市立芸術大学美術学部 准教授 三橋 卓 京都市立芸術大学美術学部 講師 谷内春子 京都市立芸術大学美術学部 講師 大野俊明 京都市立芸術大学美術学部 特任教授 横田 学 京都市立芸術大学美術学部 教授 飯田真人 京都市立芸術大学美術学部 非常勤講師		
対象	小学校の図画工作科担当教員等	定員	40名

＜研修プログラムの内容＞													
テーマ	伝統文化の鑑賞及び表現												
概要	<p>今回の学習指導要領改訂に際し、中央教育審議会答申では、小学校図画工作科、中学校美術科及び高等学校芸術科(美術、工芸)における課題として「感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、更なる充実が求められる。」と示されている。</p> <p>本研修においては、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する指導について、文化財の実地研修及び水と墨による多様な表現の試みなどの演習・講義をとおし実践的に学ぶ。</p> <p>学習指導要領との対応:小学校図画工作科「A表現(1)イ及び(2)イ」,「B鑑賞(1)ア」,[共通事項]</p>												
内容と方法	<p>【午前】</p> <p>○実地研修:離宮二条城 二の丸御殿障壁画等の鑑賞</p> <p>【午後】</p> <p>○講義①:文化財を題材とした身近な美術作品の鑑賞 文化財の造形的なよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める学習の指導について。</p> <p>○講義②及び演習 水と墨による多様な表現 表したいことを考え、墨や水、毛筆などを生かしながら、どのように表すかについて考えることの指導について。 墨や毛筆の扱い方に慣れるとともに、表したいことに合わせて手や体全体を働かせて多様に表現を試みる指導について。</p> <p>○講義③及び討議 研修のまとめ 自分たちの伝統的な文化を大切にするとともに、諸外国の文化を尊重する態度を育成する学習の指導について。</p>												
到達目標	<p>以下の事について実践的に習得するとともに、小学校図画工作科の教材作成に応用できるようになること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.身近な文化財などの造形的なよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりする。 2.墨や毛筆の扱い方に慣れるとともに、表したいことに合わせて多様な表現について試みる。 3.自分たちの伝統的な文化を大切にする指導について理解を深める。 												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>受付</td> </tr> <tr> <td>9:40~11:10</td> <td>実地研修:元離宮二条城 二の丸御殿障壁画等の鑑賞</td> </tr> <tr> <td>11:10~12:40</td> <td>昼食・移動</td> </tr> <tr> <td>12:40~13:15</td> <td>講義① 文化財を題材とした身近な美術作品の鑑賞</td> </tr> <tr> <td>13:15~15:00</td> <td>講義②+演習 水と墨による多様な表現の試み</td> </tr> <tr> <td>15:00~16:00</td> <td>講義③+討議 研修のまとめ・アンケートの記入</td> </tr> </table>		受付	9:40~11:10	実地研修:元離宮二条城 二の丸御殿障壁画等の鑑賞	11:10~12:40	昼食・移動	12:40~13:15	講義① 文化財を題材とした身近な美術作品の鑑賞	13:15~15:00	講義②+演習 水と墨による多様な表現の試み	15:00~16:00	講義③+討議 研修のまとめ・アンケートの記入
	受付												
9:40~11:10	実地研修:元離宮二条城 二の丸御殿障壁画等の鑑賞												
11:10~12:40	昼食・移動												
12:40~13:15	講義① 文化財を題材とした身近な美術作品の鑑賞												
13:15~15:00	講義②+演習 水と墨による多様な表現の試み												
15:00~16:00	講義③+討議 研修のまとめ・アンケートの記入												
教材・持ち物等	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編 墨を使用するためエプロンや汚れても良い服装など、雑巾												
特記事項	実地研修(二条城)の受付等の詳細については、第1日目の終了時にお知らせします。												

全国研修会(京都会場)

令和元年度 芸術系教科等担当教員等 全国研修会(京都会場) 実践研修の内容

中学校 音楽科

日程	令和元年 12月 14日(土) 10:00~16:00		
会場	京都市総合教育センター (担当:京都市立芸術大学) (住所)京都市下京区河原町通松原上ル2丁目富永町344番地		
講師	秋山 滋(京都市立芸術大学非常勤講師)、秋山麻子(ピアニスト) 岡田加津子(京都市立芸術大学教授)、北村千絵(京都市立芸術大学非常勤講師)		
対象	中学校の音楽科担当教員等	定員	40名

＜研修プログラムの内容＞													
テーマ	表現の幅を広げるための、楽器の効果的な活用法												
概要	<p>【リコーダー奏法／秋山】リコーダーという楽器の持つ、本来の音楽的、音響的なポテンシャルを最大限に引き出し、そこから様々な音楽の多様性を生徒が発見できるように導く方法を考察する。また楽器と楽曲の相互性を探り、今後の音楽表現に有益な手段となるように理解を深めていく。 学習指導要領との対応:「A表現(2)アイウ」</p> <p>【創作／岡田】珍しい楽器に触れ、新しい音と出会い、奏法をも自ら開拓していく経験を通して、音楽を自由にデザインする。その中で音をどのように扱い、どのようにつなげていくかを考え、創意工夫を生かした創作表現を実践する。 学習指導要領との対応:「A表現(3)アイウ」</p>												
内容と方法	<p>【リコーダー奏法／秋山】リコーダーの正しい扱い方や基礎的な演奏法を改めて見直し、音程と運指との関わり等を学びながら、美しく楽しく表現することを試みる。</p> <p>【創作／岡田】バシエの教育音具や創作楽器、声などを用い、即興的に表現することから始めて、まとまりのある創作表現へと発展させていく。</p>												
到達目標	<p>【リコーダー奏法／秋山】個々の音楽表現を豊かにすること</p> <p>【創作／岡田】音を模索することを楽しみ、既存の音楽概念の枠を出て、新しい発見ができること</p>												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>9:30~10:00</td> <td>受付</td> </tr> <tr> <td>10:00~10:15</td> <td>全体説明</td> </tr> <tr> <td>10:15~12:15</td> <td>【リコーダー奏法】</td> </tr> <tr> <td>12:15~13:15</td> <td>昼食・休憩</td> </tr> <tr> <td>13:15~15:15</td> <td>【創作】</td> </tr> <tr> <td>15:15~16:00</td> <td>ふりかえり・座談会・アンケート記入</td> </tr> </table>	9:30~10:00	受付	10:00~10:15	全体説明	10:15~12:15	【リコーダー奏法】	12:15~13:15	昼食・休憩	13:15~15:15	【創作】	15:15~16:00	ふりかえり・座談会・アンケート記入
9:30~10:00	受付												
10:00~10:15	全体説明												
10:15~12:15	【リコーダー奏法】												
12:15~13:15	昼食・休憩												
13:15~15:15	【創作】												
15:15~16:00	ふりかえり・座談会・アンケート記入												
教材・持ち物等	<p>【リコーダー奏法】アルトリコーダー(可能な方は、ソプラノ、テナー、バスリコーダーも)</p> <p>【創作】床に座ったり、しゃがんだりできるような、動きやすい服装</p>												
特記事項	【リコーダー奏法】四声部(ソプラノ、アルト、テナー、バス)の楽曲を演奏しますので、合奏可能なリコーダーをご持参ください。												

全国研修会(京都会場)

令和元年度 芸術系教科等担当教員等 全国研修会(京都会場) 実践研修の内容

中学校 美術科

日程	令和元年 12月 14日(土) 9:40~16:00		
会場	元離宮二条城(午前), キャンパスプラザ京都(午後) (担当:京都市立芸術大学) (住所) 二条城:京都市中京区二条通堀川西入二条城町541, キャンパスプラザ:京都市下京区西洞院通塩小路下る		
講師	川嶋 渉 京都市立芸術大学美術学部 教授 奥村美佳 京都市立芸術大学美術学部 准教授 三橋 卓 京都市立芸術大学美術学部 講師 谷内春子 京都市立芸術大学美術学部 講師 大野俊明 京都市立芸術大学美術学部 特任教授 横田 学 京都市立芸術大学美術学部 教授 飯田真人 京都市立芸術大学美術学部 非常勤講師		
対象	中学校の美術科担当教員等	定員	40名

<研修プログラムの内容>

テーマ	伝統文化の鑑賞及び表現		
概要	<p>今回の学習指導要領改訂に際し、中央教育審議会答申では、小学校図画工作科、中学校美術科及び高等学校芸術科(美術、工芸)における課題として「感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、更なる充実が求められる。」と示されている。</p> <p>本研修においては、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める指導について、文化財の実地研修及び水墨による表現及び鑑賞の演習・講義をとおり実践的に学ぶ。</p> <p>学習指導要領との対応:中学校美術科「A表現(1)ア及び(2)ア」、「B鑑賞(1)ア及びイ」[共通事項]</p>		
内容と方法	<p>【午前】</p> <p>○実地研修:離宮二条城 二の丸御殿障壁画等の鑑賞</p> <p>【午後】</p> <p>○講義①:美術文化と伝統</p> <p>文化財の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を深めたり広げたりする学習の指導について。</p> <p>○講義②及び演習 水墨による表現及び鑑賞</p> <p>墨と水による表現効果や筆の運びによる線の勢いなどなどに着目し、墨の特性を生かして、構想を練って表現したり鑑賞したりする指導について。</p> <p>○講義及③及び討議 研修のまとめ</p> <p>美術作品等に受け継がれてきた美意識や、伝統や文化のよさなどを感じ取り、美術文化の継承と創造について考える学習の指導について。</p>		
到達目標	<p>以下の事について実践的に習得するとともに、中学校美術科の教材作成に応用できるようになること。</p> <p>1.造形的な視点で文化財などを鑑賞し、美術文化と伝統について考える。</p> <p>2.墨と水による表現のよさや美しさを鑑賞したり表現したりする。</p> <p>3.伝統を継承し文化を創造する力を培う指導について理解を深める。</p>		
スケジュール	9:10~9:40	受付	
	9:40~11:10	実地研修:元離宮二条城 二の丸御殿障壁画等の鑑賞	
	11:10~12:40	昼食・移動	
	12:40~13:15	講義① 美術文化と伝統	
	13:15~15:00	講義②+演習 水墨による表現及び鑑賞	
	15:00~16:00	講義③+討議 研修のまとめ・アンケートの記入	
教材・持ち物等	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編 墨を使用するためエプロンや汚れても良い服装など、雑巾		
特記事項	実地研修(二条城)の受付等の詳細については、第1日目の終了時にお知らせします。		

中学校 音楽科 , 高等学校芸術科(音楽)

日程	令和元年 10月 29日(火) 10:30~16:30		
会場	宮城県総合教育センター (担当:東京藝術大学)		
	(住所)〒981-1217 宮城県名取市美田園2丁目1-4		
講師	佐野 靖 (東京藝術大学音楽学部教授)		
	加藤 昌則 (作曲家)		
	成田 仁美 (ヴァイオリン)		
対象	中学校の音楽科、高等学校の芸術科(音楽) 担当教員等	定員	40名

<実践研修>プログラムの内容

テーマ	新学習指導要領に基づく創作と鑑賞の指導法及び授業展開の視点や方法を工夫する		
概要	<p>学校音楽に携わる教員の間で、いまだに苦手意識を持つ教員が多い創作の指導。新学習指導要領においては、他の活動分野と同様、「思考力、判断力、表現力等」「知識」「技能」に係る事項が示され、創作で何ができるようになるかが明らかになりました。ただし、どのように指導するのかについては、試行錯誤の状況が続いている現場も少なくないと考えます。また、鑑賞において「深い学び」をどのように具現化していくのかも課題のひとつとなっています。</p> <p>そこで本研修では、第一線で活躍する作曲家を講師に迎え、創作と鑑賞、その関連について考えます。作曲家の視点から創作と鑑賞を考えるという体験は、受講の教員一人一人の授業づくりに幅と奥行きを与え、授業改善に結びつくアイデアにつながると思えます。また、鑑賞の研修には、若手のヴァイオリン奏者を加え、作曲家と演奏家それぞれの視点から、曲のもつ本質や魅力に迫ります。</p> <p>[学習指導要領との関連] 中学校音楽科:A表現(3)ア,イ,ウ B鑑賞(1)ア,イ 高等学校芸術科音楽Ⅰ～Ⅲ:A表現(3)ア,イ,ウ B鑑賞(1)ア,イ [共通事項]</p>		
内容と方法	<p>本研修は、作曲家の指導のもと、創作の指導法や授業づくりを学ぶ研修①と、作曲家に演奏家を加え、彼らの分析や解釈から曲のもつ魅力や本質を深く学ぶとともに、どのようにその曲のよさや楽しさを感じ取っていくのか、その学びのプロセスについて、音楽家の視点、授業実践者の視点、音楽教育学の視点をクロスさせながら考える研修②③から構成されています。</p> <p>「創作」に関する研修は、以下の学習に重点が置かれます。すなわち、①創作は難しいという意識を変える方法を学ぶこと、②アトランダムに選んだ音による短い動機をつくること、③様々な方法の中から自分に合った方法を選択し、自分なりの創作表現を工夫すること、の3点です。</p> <p>「鑑賞」の研修では、作曲家の視点と演奏家の視点から、教科書に掲載されている曲の魅力や本質を学び、鑑賞で「主体的・対話的で深い学び」を実現していくためのヒントを探ります。研修の締め括りとして、教科教育の専門家も交えて協議を行い、授業改善への工夫を検討します。</p>		
到達目標	<p>1 創作に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、自分なりの創作表現を工夫する。</p> <p>2 鑑賞教材の特徴等について理解を深めるとともに、自分や社会にとってのおける意味や価値を考察することができる。</p> <p>3 授業改善に向けて、創作の指導法や学習内容に生かせる視点と方法を考察することができる。</p>		
スケジュール	10:00~10:30	受付	
	10:30~12:30	研修①:「創作」は楽しい!	
	12:30~13:30	昼食・休憩	
	13:30~15:30	研修②:曲の魅力と本質を探る!	
	15:35~16:25	研修③:授業づくりに生きるアイデアを検討する (グループ協議)	
	16:25~16:30	アンケート記入	
	16:30	終了	
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項			

令和元年度 芸術系教科等担当教員等 地区ブロック研修会の研修内容

【中国・四国地区】

中学校美術科, 高等学校芸術科(美術)

日程	令和元年 11月 2日(土) 9:30~16:30		
会場	広島市立大学芸術学部 301演習室 広島市安佐南区大塚東3-4-1		(担当: 広島市立大学)
講師	森永昌司(芸術学部油絵専攻教授) 永見文人(芸術学部デザイン工芸学科: 教職課程)		
対象	中学校美術科、高等学校芸術科(美術)担当教員等	定員	50名

< 研修プログラムの内容 >

テーマ	人物デッサン —人が人を描くということ—
概要	<p>表現や鑑賞に関わる基礎的な学習として、対象をじっくりと見つめることが挙げられる。本プログラムでは、デッサンを通して「人と人との関わり」を意識しながら実践し、研修者の個性的な創造活動を引き出すねらいがある。また、本学の所在地である広島県を深く象徴する「生きる」という“人間の本質を示す言葉”を基に、「生きる力」の育成に関連した美術教育の可能性について考える。また、実践研修とともに、ヨーロッパのルネッサンス期からアカデミズムの成立期及び、日本の近代化以降の人物デッサンを中心とした西洋絵画の鑑賞を通して、鑑賞において必要とされる絵画形式の構造や文化史的な背景についての学びも深める。</p> <p>(学習指導要領との関連) 中学校美術科(美術)「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア、「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(イ)、[共通事項](1) 高等学校芸術科(美術)Ⅰ～Ⅲ「A表現」(1)ア(ア)、イ、(2)イ、(3)イ、「B鑑賞」(1)ア、イ、[共通事項](1)</p>
内容と方法	午前中の実技デッサンは受講者同士で、午後の実技デッサンはモデルを配置して描く。どちらも対話を活用した表現活動を行う。また、西洋の美術史の概説やアカデミックなデッサンの考え方等、造形の基礎としてのデッサンの歴史を外観するとともに、実技研修を通して得た所感と合わせて授業に応用できる方策等を探るための意見交換も行う。
到達目標	1) 人物デッサンを通して「人と人との関わり」と美術の本質的な学びとの関連についての理解を深める。 2) 人が人を描くことを通して「美術を愛好する心情」を学び、美の本質についての理解を深める。 3) 西洋絵画の歴史から作品を鑑賞し、絵画形式の構造や文化史的な背景の理解を深める。
スケジュール	10:00~10:30 : 開会式・研修の趣旨説明 10:30~12:00 : 実技デッサン① 受講者同士によるデッサン 12:00~13:00 : 昼食・休憩 13:00~14:30 : 実技デッサン② 着衣モデルとの対話によるデッサン 14:30~14:50 : 休憩 14:50~16:30 : 講和及び意見交換・アンケートの記入と回収
教材・持ち物等	スケッチブック、描画材料、消し具
特記事項	

研修番号 3

令和元年度 芸術系教科等担当教員等 地区ブロック研修会の研修内容

【関東・甲信越地区】

高等学校芸術科(書道)

日程	令和元年 11月23日(土)10:10~16:30、11月24日(日)10:10~16:00		
会場	東京学芸大学附属高等学校 (担当:東京学芸大学) (住所) 東京都世田谷区下馬4-1-5		
講師	豊口和士(文化庁教科調査官)、荒井一浩先生、木村則夫先生、杉田昌也先生、平井宏美先生		
対象	高等学校芸術科(書道)担当教員等	定員	20名

<研修プログラムの内容>

テーマ	鑑賞教育の一層の充実に向けて ~これまでの授業実践の成果の共有と授業改善の視点~																			
概要	新しい学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容についての理解を深めるとともに、一層の充実が求められる鑑賞教育について、東京学芸大学附属高等学校の実際の鑑賞の授業の見学とその協議、これまでの実践例の発表と協議を通して、自らで授業の改善と工夫に取り組む上で必要となる教員としての資質・能力を養うことを目的とする。 ◇学習指導要領との関連: (書道 I の場合) B鑑賞 (1) ア(ア) イ(ア)(イ)(ウ)(エ)、共通事項																			
内容と方法	23日<第1日目> 新しい学習指導要領でも引き続き一層の充実が求められる鑑賞教育について、東京学芸大学附属高等学校の公開研究会で行われる実際の授業実践の参観を行い、その授業についての協議を行う。 24日<第2日目> 鑑賞教育を積極的に展開している関東甲信越地区(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)の教諭による事例発表を行い、実践成果の共有とその内容について協議を行う。これらを通して、教育現場での指導の充実に取り組むためのスキルを高め、指導に必要な視野を広げる。																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習指導要領の趣旨と鑑賞教育の指導内容について理解し、今後自らで深めることができる。 ・鑑賞の実践事例について共有し、鑑賞の指導法を今後自らで考え、工夫改善に取り組むことができる。 ・鑑賞の授業における工夫改善に自ら取り組む上で必要な教員としての基本的な資質・能力を身に付ける。 																			
スケジュール	23日<第1日目> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>10:00~10:10: 受付</td></tr> <tr><td>10:10~10:20: 開会挨拶, 事務連絡(時程等説明), 趣旨説明</td></tr> <tr><td>10:00~12:00: 公開授業(東京学芸大学附属高等学校公開研究会授業)参観</td></tr> <tr><td>12:00~12:45: 昼食・休憩</td></tr> <tr><td>12:45~14:15: 研究協議①</td></tr> <tr><td>14:15~14:25: 休憩</td></tr> <tr><td>14:25~15:30: 研究協議②, 意見交換</td></tr> <tr><td>15:30~16:20: 教科調査官による講話(新教育課程解説、鑑賞教育の在り方と今後の課題)</td></tr> <tr><td>16:20~16:30: まとめ, 事務連絡</td></tr> </table> 24日<第2日目> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>10:00~10:10: 受付</td></tr> <tr><td>10:10~10:20: 事務連絡(時程等説明)</td></tr> <tr><td>10:20~12:30: 鑑賞授業事例発表(荒井一浩先生、木村則夫先生、杉田昌也先生、平井宏美先生)</td></tr> <tr><td>12:30~13:30: 昼食・休憩</td></tr> <tr><td>13:30~15:00: 研究協議, 意見交換</td></tr> <tr><td>15:00~15:10: 休憩</td></tr> <tr><td>15:10~15:40: 教科調査官による指導・講評</td></tr> <tr><td>15:40~16:00: アンケート記入, 事務連絡, 閉会挨拶</td></tr> </table>			10:00~10:10: 受付	10:10~10:20: 開会挨拶, 事務連絡(時程等説明), 趣旨説明	10:00~12:00: 公開授業(東京学芸大学附属高等学校公開研究会授業)参観	12:00~12:45: 昼食・休憩	12:45~14:15: 研究協議①	14:15~14:25: 休憩	14:25~15:30: 研究協議②, 意見交換	15:30~16:20: 教科調査官による講話(新教育課程解説、鑑賞教育の在り方と今後の課題)	16:20~16:30: まとめ, 事務連絡	10:00~10:10: 受付	10:10~10:20: 事務連絡(時程等説明)	10:20~12:30: 鑑賞授業事例発表(荒井一浩先生、木村則夫先生、杉田昌也先生、平井宏美先生)	12:30~13:30: 昼食・休憩	13:30~15:00: 研究協議, 意見交換	15:00~15:10: 休憩	15:10~15:40: 教科調査官による指導・講評	15:40~16:00: アンケート記入, 事務連絡, 閉会挨拶
10:00~10:10: 受付																				
10:10~10:20: 開会挨拶, 事務連絡(時程等説明), 趣旨説明																				
10:00~12:00: 公開授業(東京学芸大学附属高等学校公開研究会授業)参観																				
12:00~12:45: 昼食・休憩																				
12:45~14:15: 研究協議①																				
14:15~14:25: 休憩																				
14:25~15:30: 研究協議②, 意見交換																				
15:30~16:20: 教科調査官による講話(新教育課程解説、鑑賞教育の在り方と今後の課題)																				
16:20~16:30: まとめ, 事務連絡																				
10:00~10:10: 受付																				
10:10~10:20: 事務連絡(時程等説明)																				
10:20~12:30: 鑑賞授業事例発表(荒井一浩先生、木村則夫先生、杉田昌也先生、平井宏美先生)																				
12:30~13:30: 昼食・休憩																				
13:30~15:00: 研究協議, 意見交換																				
15:00~15:10: 休憩																				
15:10~15:40: 教科調査官による指導・講評																				
15:40~16:00: アンケート記入, 事務連絡, 閉会挨拶																				
教材・持ち物等	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)解説 芸術編』																			
特記事項																				

中学校美術科、高等学校芸術科（美術）

日程	令和元年 11月 29日(金) 10:00～16:00		
会場	沖縄県立芸術大学美術工芸学部 首里崎山キャンパス (住所)〒903-0814 沖縄県那覇市首里崎山町4-212-1		(担当: 沖縄県立芸術大学)
講師	【彫刻講座】(彫刻専攻) 波多野泉(教授)、砂川泰彦(教授)、河原圭佑(講師)、長尾恵那(講師) 他 【デザイン講座】(デザイン専攻) 仲本賢(教授)、又吉浩(准教授)、大城愛香(助手) 他 【工芸講座】(工芸専攻) 実習: 真栄城興茂(教授)、山田聡(教授) 他 鑑賞: 名護朝和(教授)、當眞茂(准教授) 他		
対象	中学美術科、高等学校芸術科(美術、工芸)担当教員等	定員 50名	①彫刻講座: 10名 ②デザイン講座: 20名 ③工芸講座: 20名 [午前] A1・A2 各10名 [午後] B1・B2 各10名
<研修プログラムの内容>			
テーマ	制作と鑑賞を組み合わせた授業研究 (各講座の具体的なテーマは、概要に記載)		
概要	①彫刻講座: 「トモダチの肖像」 ～友人をモデルにした塑造制作及び鑑賞 ②デザイン講座: 「ストップモーションアニメーション」 ～コマ撮りクリエイション制作及び鑑賞 ③工芸講座: [午前] (A1) 織分野「植物染料による絞り染」 (A2) 陶芸分野「器の色付けと木炭による焼成」 [午後] (B1) 染分野「地域の伝統工芸にふれる(染)」(本学芸術資料館収蔵品) (B2) 漆芸分野「地域の伝統工芸にふれる(漆)」(首里城収蔵品) (学習指導要領との関連) ・中学校美術科「A表現」(1)ア、イ、「B鑑賞」(1)ア、イ、[共通事項](1) ・高等学校芸術科(美術)Ⅰ～Ⅲ「A表現」(1)、(3)、「B鑑賞」(1)ア、イ、[共通事項](1) ・高等学校芸術科(工芸)Ⅰ～Ⅲ「A表現」(1)、(2)、「B鑑賞」(1)ア、イ、[共通事項](1)		
内容と方法	各講座に分かれて、作品制作及び作品等鑑賞による授業とグループ討議		
到達目標	・作品制作及び鑑賞を通して、造形的なものの見方や捉え方、感じ方等を意識できるようになる。 ・生徒の素材・道具・機器等の適切な扱いや安全衛生に配慮した制作指導ができるようになる。 ・身近な材料を使用して作品制作を実践的に学び、授業に応用できるようになる。 ・作品等の鑑賞を通して、文化財はもとより他者の作品・著作物を尊重し、社会や生活の中での美術や工芸の働き・役割を意識できるようになる。 ・各分野における造形の基本を確認し、専門的な造形表現の実践と鑑賞を通して、表現と鑑賞の関連を図った授業を展開できるようになる。		
スケジュール	9:30～10:00 受付 10:00～10:10 開会挨拶、事務連絡(日程等説明) 10:10～12:30 各講座ごとの制作実習(鑑賞を含む) 12:30～13:30 昼食・休憩 【彫刻講座】【デザイン講座】 13:30～15:55 各講座ごとの鑑賞授業(実習を含む) ; 【工芸講座】 グループ討議、まとめ、アンケート記入 ; 13:30～13:50 移動(本学芸術資料館、首里城) ; 13:50～15:55 収蔵作品鑑賞、グループ討議、 ; まとめ、アンケート記入 15:55～16:00 閉会挨拶		
教材・持ち物等	軽作業着、作業靴、タオル、エプロン、筆記用具等		
特記事項	講座の希望提出については、決定通知でお知らせします。		

小学校 図画工作科

日程	令和元年12月2日(月)13:00~16:30、12月3日(火)9:00~15:00		
会場	秋田公立美術大学 (担当:秋田公立美術大学) (住所)〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3 秋田公立美術大学		
講師	東良雅人(文部科学省視学官)、岡田京子(文化庁教科調査官)、蝦名敦子 教授(弘前大学)、藤浩志 教授、小牟禮尊人 教授 坂本憲信 准教授、皆川嘉博 准教授、熊谷晃 准教授、石倉敏明 准教授、服部浩之 准教授、井上豪 准教授、尾澤勇 教授		
対象	小学校の図画工作科担当教員等	定員	50名

＜研修プログラムの内容＞

テーマ	豊かで広がりある美術や図画工作を体感する！																																		
概要	秋田公立美術大学の各専攻や美術教育センターに所属する教員による、美的体験を通したレクチャー及びワークショップを通して、実際の図画工作科等の授業に応用するための視点を獲得することを目的とした講座である。美術大学の教員の専門性に裏打ちされた普段、学校教育で扱うことの少ない、工芸の技や現代の美術シーン、美術史などの美術の諸相について、6つの講座の中から選択受講する。知的好奇心を喚起し指導に生かすための知識や技能等の深化をはかる。各講座受講後、図画工作科等の授業展開への可能性などについてグループ討議により考え、発表することで共有をはかり、学習指導要領の趣旨の実現につなげる視点で深めていく。 学習指導要領との対応： 小学校図画工作科「A表現(1)アイ」「B鑑賞(1)ア」、「共通事項」(1)																																		
内容与方法	<p>【選択講座】6つの講座から1つ選択、一部のワークショップには人数制限があります</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座1『図工題材の作り方』(講義、ワークショップ) 講師: 蝦名敦子 図画工作科の題材をつくる考え方について、学習指導要領に基づきながら解説する。また具体的に造形活動を行い、実践的理解を深める。 講座2『人をつくる(テラコッタ技法による)』(ワークショップ) (5名) 講師: 皆川嘉博 粘土を使った表現と技法を学ぶ。(焼成技法を前提とした。) 講座3『我が国の文化と生活の中の造形を体感する(漆芸制作)』(ワークショップ) (5名) 講師: 熊谷晃 漆の代表的技法を用いた制作を通して、伝統工芸への理解と素材と表現から得る実体感から生活の中の造形や製作の過程の鑑賞を目的とする。 講座4『吹きガラス制作体験』(ワークショップ) (5名) 講師: 小牟禮尊人 ガラス造形技法の特色である吹きガラスの技法で、オリジナルガラスの制作を体験する。溶けたガラスを扱いコントロールするバランス感覚や、さまざまな素材の表情を体験する事で身体性や感覚から生活の中の造形や製作の過程の鑑賞を目的とする。 講座5『考えを具体化するためのスケッチ演習』(ワークショップ) 講師: 坂本憲信 モチーフの観察描写(クローキーマ)の後に、何らかの条件設定し、その条件を基に想像しながら発想・構想の力を醸成する。 講座6『「アーツ&ルーツ」の複合性』、『東洋古代美術の「彩色」をテーマとした講座』(レクチャー) 講師: 石倉敏明、服部浩之、井上豪 前半はヴェネチア・ビエンナーレ2019での日本館プロジェクトを踏まえて、フィールドワークや異分野の協働に基づく現代美術の実践例や秋田公立美術大学での専攻の取り組みを検討する。後半は化学分析などによる仏像や壁画の復元研究、正倉院宝物等に見られる彩色表現などを紹介。東洋美術の持つ「古色」イメージを一旦リセットし受講者に対する興味喚起の入口とする。前後半を通して我が国や海外の美術作品などの鑑賞を目的とする。 <p>【グループ討議】 各講座受講後、グループ討議を行い学校での授業展開への可能性を考える。</p> <p>【グループ討議の発表・まとめ】 グループ討議の内容を全体に発表し共有化とまとめを行う。</p>																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 美術や造形の諸相について体感し、指導方法等について視野を広げることができる。 2 本講座を受講して、「主体的、対話的で深い学び」の視点で自らのこれまでの指導や題材を振り返ることができる。 3 体感した講座内容をヒントに、図画工作科の授業等に応用する視点を持つことができる。 																																		
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>12月2日(月)</td> <td>1日目</td> </tr> <tr> <td>12:30~13:00</td> <td>受付</td> </tr> <tr> <td>13:00~13:20</td> <td>開会式</td> </tr> <tr> <td>13:30~14:20</td> <td>全体講義1「(仮題)新学習指導要領の趣旨について」東良雅人 視学官</td> </tr> <tr> <td>14:35~15:25</td> <td>【選択講座1~6】</td> </tr> <tr> <td>15:25~15:40</td> <td>休憩(それぞれの講座によって適宜15分休憩を入れる)</td> </tr> <tr> <td>15:40~16:30</td> <td>【選択講座1~6】</td> </tr> <tr> <td>12月3日(火)</td> <td>2日目</td> </tr> <tr> <td>8:50~9:00</td> <td>集合</td> </tr> <tr> <td>9:00~10:00</td> <td>講演「美術と社会はどのようにつながっているのか」藤 浩志 教授</td> </tr> <tr> <td>10:15~10:35</td> <td>全体講義2「授業に生かす視点について」尾澤 勇 教授</td> </tr> <tr> <td>10:50~11:40</td> <td>グループ討議(学校での授業展開への可能性を考える)</td> </tr> <tr> <td>11:40~13:00</td> <td>昼食・休憩</td> </tr> <tr> <td>13:00~13:50</td> <td>グループ討議の発表・まとめ</td> </tr> <tr> <td>14:00~14:40</td> <td>全体講義3「(仮題)受講者の討議・まとめを受けて」岡田京子 教科調査官</td> </tr> <tr> <td>14:40~15:00</td> <td>閉会式(アンケート記入含む)</td> </tr> </table>			12月2日(月)	1日目	12:30~13:00	受付	13:00~13:20	開会式	13:30~14:20	全体講義1「(仮題)新学習指導要領の趣旨について」東良雅人 視学官	14:35~15:25	【選択講座1~6】	15:25~15:40	休憩(それぞれの講座によって適宜15分休憩を入れる)	15:40~16:30	【選択講座1~6】	12月3日(火)	2日目	8:50~9:00	集合	9:00~10:00	講演「美術と社会はどのようにつながっているのか」藤 浩志 教授	10:15~10:35	全体講義2「授業に生かす視点について」尾澤 勇 教授	10:50~11:40	グループ討議(学校での授業展開への可能性を考える)	11:40~13:00	昼食・休憩	13:00~13:50	グループ討議の発表・まとめ	14:00~14:40	全体講義3「(仮題)受講者の討議・まとめを受けて」岡田京子 教科調査官	14:40~15:00	閉会式(アンケート記入含む)
12月2日(月)	1日目																																		
12:30~13:00	受付																																		
13:00~13:20	開会式																																		
13:30~14:20	全体講義1「(仮題)新学習指導要領の趣旨について」東良雅人 視学官																																		
14:35~15:25	【選択講座1~6】																																		
15:25~15:40	休憩(それぞれの講座によって適宜15分休憩を入れる)																																		
15:40~16:30	【選択講座1~6】																																		
12月3日(火)	2日目																																		
8:50~9:00	集合																																		
9:00~10:00	講演「美術と社会はどのようにつながっているのか」藤 浩志 教授																																		
10:15~10:35	全体講義2「授業に生かす視点について」尾澤 勇 教授																																		
10:50~11:40	グループ討議(学校での授業展開への可能性を考える)																																		
11:40~13:00	昼食・休憩																																		
13:00~13:50	グループ討議の発表・まとめ																																		
14:00~14:40	全体講義3「(仮題)受講者の討議・まとめを受けて」岡田京子 教科調査官																																		
14:40~15:00	閉会式(アンケート記入含む)																																		
教材・持ち物等	作業しやすい服装、軍手、タオル(作業系ワークショップの場合)、筆記用具																																		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する選択講座の申込み方法は、受講決定通知で連絡します。 ・1日目終了後、希望者で交流会の開催を予定しています。詳細は、受講者に後日お知らせします。 																																		

中学校 美術科 , 高等学校 芸術科(美術)

日程	令和元年12月2日(月)13:00~16:30、12月3日(火)9:00~15:00		
会場	秋田公立美術大学 (担当:秋田公立美術大学) (住所)〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3 秋田公立美術大学		
講師	東良雅人(文部科学省視学官)、岡田京子(文化庁教科調査官)、藤浩志 教授、島屋純晴 教授、小牟禮尊人 教授 坂本憲信 准教授、皆川嘉博 准教授、熊谷晃 准教授、石倉敏明 准教授、服部浩之 准教授、井上豪 准教授、尾澤勇 教授		
対象	中学校美術科、高等学校芸術科(美術、工芸)担当教員等	定員	50名

＜研修プログラムの内容＞	
テーマ	豊かで広がりある美術を体感する！
概要	秋田公立美術大学の各専攻や美術教育センターに所属する教員による、美的体験を通じたレクチャー及びワークショップを通して、実際の学校教育に応用するための視点を獲得することを目的とした講座である。美術大学の教員の専門性に裏打ちされた普段、学校教育で扱うことのない、工芸の技や現代の美術シーン、美術史などの美術の諸相について、6つの講座の中から選択受講する。知的好奇心を喚起し指導に生かすための知識や技能等の深化をはかる。各講座受講後、学校教育の授業展開への可能性などについてグループ討議により考え、発表することで共有をはかり、学習指導要領の趣旨の実現につなげる視点で深めていく。 学習指導要領との対応： 中学校美術科「A表現」(1)、(2)、「B鑑賞」(1)[共通事項](1) 高等学校芸術(美術)「A表現」(1)、(2)、「B鑑賞」(1)[共通事項](1) 高等学校芸術(工芸)「A表現」(1)、(2)、「B鑑賞」(1)[共通事項](1)
内容と方法	【選択講座】(6つの講座から1つ選択、一部のワークショップには人数制限があります) ・講座1 『オープンキャストによるアルミ鋳造』(ワークショップ)(10名)講師:島屋純晴 学校での授業実施のヒントになる内容を実施し、短時間でアルミニウム製の半立体作品を制作体験する。 ・講座2 『人をつくる(テラコッタ技法による)』(ワークショップ)(5名)講師:皆川嘉博 粘土を使った表現と技法を学ぶ。(焼成技法を前提とした。) ・講座3 『我が国の文化と生活の中の造形を体感する(漆芸制作)』(ワークショップ)(5名)講師:熊谷晃 漆の代表的技法を用いた制作を通して、伝統工芸への理解と素材と表現から得る実体感の醸成を目的とする。 ・講座4 『ガラス制作体験』(ワークショップ)(5名)講師:小牟禮尊人 ガラス造形技法の特色である吹きガラスの技法で、オリジナルガラスの制作を体験する。溶けたガラスを扱いコントロールするバランス感覚や、さまざまな素材の表情を体験する事で身体性や感覚を養う。 ・講座5 『考えを具体化するためのスケッチ演習』(ワークショップ)講師:坂本憲信 モチーフの観察描写(クロッキー)の後に、何らかの条件設定し、その条件を基に想像しながら発想・構想の力を醸成する。 ・講座6 『「アーツ&ルーツ」の複合性』『東洋古代美術の「彩色」をテーマとした講座』(レクチャー) 講師:石倉敏明、服部浩之、井上豪 前半はヴェネチア・ビエンナーレ2019での日本館プロジェクトを踏まえて、フィールドワークや異分野の協働に基づく現代美術の実践例や秋田公立美術大学での専攻の取り組みを検討する。後半は化学分析などによる仏像や壁画の復元研究、正倉院宝物等に見られる彩色表現などを紹介。東洋美術の持つ「古色」イメージを一旦リセットし受講者に対する興味喚起の入口とする。 【グループ討議】 各講座受講後、グループ討議を行い学校での授業展開への可能性を考える。 【グループ討議の発表・まとめ】 グループ討議の内容を全体に発表し共有化とまとめを行う。
到達目標	1 美術の諸相について体感し、指導方法等について視野を広げることができる。 2 本講座を受講して、「主体的、対話的で深い学び」の視点で自らのこれまでの指導や題材を振り返ることができる。 3 体感した講座内容をヒントに、学校教育に応用する視点を持つことができる。
スケジュール	12月2日(月) :1日目 12:30~13:00 :受付 13:00~13:20 :開会式 13:30~14:20 :全体講義1「(仮題)新学習指導要領の趣旨について」東良雅人 視学官 14:35~15:25 :【選択講座1~6】 15:25~15:40 :休憩(それぞれの講座によって適宜15分休憩を入れる) 15:40~16:30 :【選択講座1~6】 12月3日(火) :2日目 8:50~9:00 :集合 9:00~10:00 :講演「美術と社会はどのようにつながっているのか」藤 浩志 教授 10:15~10:35 :全体講義2「授業に生かす視点について」尾澤 勇 教授 10:50~11:40 :グループ討議(学校での授業展開への可能性を考える) 11:40~13:00 :昼食・休憩 13:00~13:50 :グループ討議の発表・まとめ 14:00~14:40 :全体講義3「(仮題)受講者の討議・まとめを受けて」岡田京子 教科調査官 14:40~15:00 :閉会式(アンケート記入含む)
教材・持ち物等	作業しやすい服装、軍手、タオル(作業系ワークショップの場合)、筆記用具
特記事項	・希望する選択講座の申込み方法は、受講決定通知で連絡します。 ・1日目終了後、希望者で交流会の開催を予定しています。詳細は、受講者に後日お知らせします。

中学校美術科，高等学校芸術科(美術)

日程	令和元年 12月 6日(金) 10:00~16:00		
会場	国立大学法人 佐賀大学 (担当:佐賀大学) (住所)〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1		
講師	栗山裕至教授 花田伸一准教授 徳安和博教授 鳥谷さやか講師 小木曾誠准教授 米村太一特任助教 中村隆敏教授 西村幸一郎特任助教 吉永伸裕(佐賀県教育庁学校教育課)		
対象	中学校美術、高等学校芸術科(美術)担当教員等	定員	40名

＜研修プログラムの内容＞	
テーマ	鑑賞、素描、映像メディア表現における授業展開を考える
概要	今回の研修では、中学校美術科及び高等学校芸術科(美術、工芸)の学習指導要領に示された内容から素描、映像メディア表現、鑑賞の学習活動に焦点を当て、この三つの内容の講義と演習を通して、これからのSociety5.0の時代に求められる資質・能力を美術教育の視座から捉えなおし、学校現場に生かしてもらえらるききっかけとなるよう計画した。表現領域の基本である素描、そして常に技術の進歩とともにあるべき映像メディア表現を計画した。鑑賞領域においては対話を用いた鑑賞の考え方や実践例を提案する。 学習指導要領との関連 ・中学校美術科「A表現」(1)(2)、「B鑑賞」(1)、〔共通事項〕(1) ・高等学校芸術科(美術)Ⅰ～Ⅲ「A表現」(1)(2)(3)、「B鑑賞」(1)〔共通事項〕(1)
内容と方法	【全体講義】「新学習指導要領の教育観」(栗山裕至) 【全体講義2】「キュレーターに聞く 鑑賞のツボ」(花田伸一、徳安和博、鳥谷さやか) 【コース1】「素描の見方描き方考え方、石膏版画への応用」(小木曾誠、米村太一)20名 【コース2】「映像メディア表現の最新技術と授業への活用」(中村隆敏、吉永伸裕、西村幸一郎)20名
到達目標	1.学習指導要領について理解する。 2.対話を用いた鑑賞方法の展開事例について理解する。 3.石膏版画技法の活動を通して、素描における見方や描き方、考え方についての理解を深める。 4.映像メディア表現の最新技術と授業への活用方法を理解する。
スケジュール	9:30~10:00 受付 ----- 10:00~10:10 開会行事 ----- 10:10~11:00 【全体講義】「新学習指導要領の教育観」 ----- 11:10~12:00 【全体講義2】「キュレーターに聞く 鑑賞のツボ」 ----- 12:00~13:00 昼食・休憩 ----- 13:00~13:30 【コース1】「素描の見方描き方考え方」【コース2】「映像メディア表現の最新技術」 ----- 13:40~15:40 【コース1】「素描の石膏版画への応用」【コース2】「映像メディア表現の授業への活用」 ----- 15:40~16:00 まとめ・アンケート記入
教材・持ち物等	筆記具、汚れてもよい作業のできる服装
特記事項	午後実施の【コース1】【コース2】の受講希望の提出については、参加決定通知でお知らせします。(コース定員各20人の予定)

高等学校芸術科（書道）

日程	令和元年 12月9日(月)13:20~16:30 , 12月10日(火)9:50~16:30		
会場	大阪教育大学 柏原キャンパス F-210 (住所)大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1		(担当:大阪教育大学)
講師	豊口和士(文化庁教科調査官)、布澤芳人先生		
対象	高等学校芸術科(書道)担当教員等	定員	20名

＜研修プログラムの内容＞

テーマ	新学習指導要領の趣旨を踏まえた高等学校芸術科書道の授業の在り方		
概要	新しい学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容についての理解を深めるとともに、一層の充実が求められる鑑賞教育について、現職教員による模擬授業とその意見交換、教科調査官の講話と、グループディスカッション及び授業の指導計画の作成を通して、自らで授業の改善と工夫に取り組む上で必要となる教員としての資質・能力を養うことを目的とする。 ◇学習指導要領との関連：(書道Ⅰの場合)B鑑賞(1)ア(ア)イ(ア)(イ)(ウ)(エ)、共通事項		
内容と方法	9日＜第1日目＞:布澤芳人先生による模擬授業、研究協議 10日＜第2日目＞:教科調査官による新学習指導要領に関する講話 新学習指導要領に即した授業計画の作成(グループディスカッション)		
到達目標	・新学習指導要領の趣旨を踏まえた高等学校芸術科書道の授業の在り方を考え、自ら授業の工夫改善に取り組むことができる。 ・生徒が意欲的に学習に取り組めるような効果的な授業が行えるよう、効果的な授業の指導計画を作成できるよう教員としての基本的な資質・能力を身に付ける。		
スケジュール	<p>9日＜第1日目＞</p> <p>13:00~13:20:受付</p> <p>13:20~13:30:開会あいさつ、事務連絡(時程等説明)、趣旨説明</p> <p>13:30~14:20:模擬授業(布澤芳人先生)</p> <p>14:20~14:30:休憩</p> <p>14:30~15:00:授業者による模擬授業の解説</p> <p>15:00~16:30:研究協議、意見交換</p> <p>10日＜第2日目＞</p> <p>9:30~9:50:受付</p> <p>9:50~10:00:事務連絡(時程等説明)</p> <p>10:00~11:30:教科調査官による講話(新学習指導要領の趣旨と改善点)</p> <p>11:30~12:00:質疑応答、午後のテーマに関する意見交換</p> <p>12:00~13:00:昼食・休憩</p> <p>13:00~14:30:グループディスカッション、新学習指導要領に即した指導計画の作成</p> <p>14:30~14:40:休憩</p> <p>14:40~16:00:指導計画の発表、研究協議、意見交換</p> <p>16:00~16:20:教科調査官の指導・講評</p> <p>16:20~16:30:アンケート記入・事務連絡・閉会挨拶</p>		
教材・持ち物等	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)解説 芸術編』 書道用具一式(硯、文鎮は会場校備品の使用が可能)		
特記事項	各自でスリッパをご用意ください。		

高等学校芸術科(書道)

日程	令和元年 12月10日(火)13:20~16:30 , 12月24日(火)9:50~16:30		
会場	徳川美術館(12月10日) , 愛知教育大学(12月24日) (担当:愛知教育大学) (住所)徳川美術館 名古屋市東区徳川町1017 / 愛知教育大学 刈谷市井ヶ谷町広沢1		
講師	10日<第1日目> 吉川美穂先生(徳川美術館学芸員) 24日<第2日目> 豊口和士(文化庁教科調査官)、川瀬英幹先生、三浦拓真先生		
対象	高等学校芸術科(書道)担当教員等	定員	20名

<研修プログラムの内容>

テーマ	新しい教育課程と、鑑賞教育の一層の充実・推進
概要	新しい学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容についての理解を深めるとともに、一層の充実が求められる鑑賞教育について、美術館学芸員による鑑賞方法や展示の工夫に関する講義及びこれまでの学校現場での実践例の発表と協議を通して、自らで授業の改善と工夫に取り組む上で必要となる教員としての資質・能力を養うことを目的とする。 ◇学習指導要領との関連:(書道Iの場合)B鑑賞(1)ア(ア)イ(ア)(イ)(ウ)(エ)、共通事項
内容と方法	「鑑賞教育」をテーマとし、①日常生活の中に見ることが出来る文字文化への視点を通して、伝統的な書文化・書作品への興味関心を広げることを目指した模擬授業、②美術館の協力を得て、実際に書作品に接しながら、展示の工夫や鑑賞方法を学び、それらをもととした、鑑賞指導の模擬授業の2つの授業実践を行い、協議や意見交換を通して、教育現場での指導の充実に取り組むためのスキルを高めるとともに、視野を広げられる内容の研修会とする。
到達目標	・新しい学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容について、十分に理解を深める。 ・指導内容や指導方法等の改善に自ら取り組む上で必要な、教員としての基本的な資質・能力を身に付ける。(本年度は「書道I」における鑑賞教育を中心とする。)
スケジュール	10日<第1日目> : 13:00~13:20:受付 13:20~13:30:開会あいさつ、事務連絡(時程等説明)、趣旨説明 13:30~14:30:徳川美術館学芸員による美術館における鑑賞についての講義 14:30~15:30:作品鑑賞と解説 15:30~15:40:休憩 15:40~16:30:鑑賞の方法と指導への工夫についての研究協議 24日<第2日目> : 9:30~9:50:受付 9:50~10:00:事務連絡(時程等説明) 10:00~12:00:鑑賞教育実践例紹介(模擬授業①川瀬英幹先生)、研究協議 12:00~13:00:昼食・休憩 13:00~15:00:鑑賞教育実践例紹介(模擬授業②三浦拓真先生)、研究協議 15:00~15:10:休憩 15:10~16:10:教科調査官による指導・講評、意見交換 16:10~16:30:アンケート記入・事務連絡・閉会挨拶
教材・持ち物等	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)解説 芸術編』
特記事項	第1日目(徳川美術館)へは、作品鑑賞に適した服装にて、適切な筆記用具等を携行のうえご参加下さい。

高等学校芸術科(工芸)

日程	令和元年 12月 21日(土) 10:30~16:30		
会場	東京藝術大学 大学美術館 (住所)110-8714 台東区上野公園12-8		(担当:東京藝術大学)
講師	薩摩 雅登 大学美術館教授 黒川 廣子 大学美術館教授(日本近代工芸史) 渡邊 五大 美術学部准教授(美術教育)		
対象	高等学校芸術科(工芸)担当教員等	定員	20名

＜研修プログラムの内容＞	
テーマ	「工芸作品」と「作品をつくる道具」についての鑑賞教育
概要	多様な作品を見て作者の心情や意図について考え、制作に対する崇高な精神などを感じ取る。また制作における具体的な技術や技法を知り、素材を効果的に生かすための道具について理解を深める。本研修の内容は、学習指導要領に沿って各教育機関での授業に反映できることを目的とする。 (学習指導要領との関連) 高等学校芸術科(工芸)「B鑑賞」(1)、〔共通事項〕(1)
内容と方法	作品の紹介・解説をし、東京藝術大学美術館に収蔵されている作品も鑑賞をする。また、工芸制作には様々な道具が必要となることから「刃物」と「研ぎ」に焦点を絞り、実際に工芸の作品制作で使用されている道具についても使用方法や道具ができるまでの解説を行う。制作過程による工夫や素材の生かし方などが分かる解説を映像とともに鑑賞し、理解を深める。さらに、その場で実物を見たり触れたりすることができるなどの体験的な鑑賞も取り入れたり、天然砥石(素材)の生かし方や研ぎ(技法)や実用性(切れ味)等を体験することにより、技術や技法の理解を深める。
到達目標	・工芸作品を鑑賞することにより、日本の工芸と文化について考え、身近な生活や社会的な視点に立って、よさや美しさなどを感じ取り、制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深める。 ・「刃物」に見られる造形的なよさや美しさなどから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、機能と美の調和などについて考えを深める。
スケジュール	10:00~10:30 受付 10:30~12:00 パワーポイント(画像)による工芸作品の紹介・解説 12:00~13:00 昼食・休憩 13:00~14:00 美術館収蔵作品の鑑賞 14:00~16:00 工芸(木工)作品を制作する際に使用する技法と道具の解説と体験 16:00~16:30 討議(高等学校授業での鑑賞教育の可能性について考える)アンケート記入
教材・持ち物等	・筆記用具 ・動きやすく、作品に傷をつけない服装(鑑賞時)及び、汚れてもよい服装(体験時)
特記事項	

中学校音楽科, 高等学校芸術科(音楽)

日程	令和元年 12月 25日(水) 10:00~16:30		
会場	東邦音楽大学 16号館3階スタジオB (担当:東邦音楽大学) (住所)埼玉県川越市今泉84		
講師	荻久保 和明(東邦音楽大学大学院特任教授) 西田 康子(東邦音楽大学特任教授) 臼井 学(文化庁教科調査官)		
対象	中学校音楽科、高等学校芸術科(音楽) 担当教員等	定員	50名

＜研修プログラムの内容＞																					
テーマ	生徒の主体性を引き出すための教員の役割を考える(何をより、いかに伝えるかという視点の重要性)																				
概要	<p>新学習指導要領においては生徒が何を学ぶか、どのように学ぶかの視点を大切に、学びに向かう力を引き出すことが重要とされている。本研修では、生徒の主体性を引き出すための教員の役割、伝え方等について例示するとともに、講義・演習を通して、音楽科教員に求められる資質・能力について理解を深めていきたい。ポイントは、伝えるべき内容よりも伝え方にあるという点である。教育の質は教員の質に比例し、その最良の資質は何かを伝えたいという強い情熱と伝わった時に喜びを感じることができるメンタリティにある。</p> <p>[学習指導要領との関連] 中学校音楽科:A表現(1)ア,イ,ウ(3)イ,ウ B鑑賞(1)ア,イ 高等学校芸術科音楽Ⅰ～Ⅲ:A表現(1)ア,イ,ウ(3)イ,ウ B鑑賞(1)ア,イ [共通事項]</p>																				
内容と方法	<p>実践研修①—テーマ:創作(担当:荻久保和明) 各旋律の秘密、誰でも作曲家と題して、易しく解説。生徒の自主的参加を促すやり方を伝授します。</p> <p>実践研修②—テーマ:鑑賞(担当:西田康子・荻久保和明) デジタル教科書及びインターネット音源の利用によりどのような鑑賞の授業が可能か、その新しい方向性を示します。複数の音源を聴き比べることにより、演奏論・解釈の領域まで踏み込み、自ら考え、自ら発表するという積極的参加へ導く方法を提示します。</p> <p>講演—テーマ:新学習指導要領のポイントと留意点(担当:臼井学教科調査官)</p> <p>実践研修②—テーマ:合唱(担当:荻久保和明) 発声練習・指揮法の実際、そして、いかに普通の授業の中で合唱を通し、音楽的感動を導き出すかを実践します。</p>																				
到達目標	新しいツールを用いた創作・鑑賞の授業の可能性を考えたり、合唱を通して感動を共有することの重要性を理解していただければ幸いです。																				
スケジュール	<table border="1"> <tr><td>9:30~10:00</td><td>受付</td></tr> <tr><td>10:00~10:10</td><td>開会式</td></tr> <tr><td>10:10~11:20</td><td>実践研修①</td></tr> <tr><td>11:20~11:30</td><td>休憩</td></tr> <tr><td>11:30~12:40</td><td>実践研修②</td></tr> <tr><td>12:40~13:40</td><td>昼食・休憩</td></tr> <tr><td>13:40~15:00</td><td>講演</td></tr> <tr><td>15:00~15:10</td><td>休憩</td></tr> <tr><td>15:10~16:30</td><td>実践研修③</td></tr> <tr><td>16:30</td><td>アンケートを提出し終了</td></tr> </table>	9:30~10:00	受付	10:00~10:10	開会式	10:10~11:20	実践研修①	11:20~11:30	休憩	11:30~12:40	実践研修②	12:40~13:40	昼食・休憩	13:40~15:00	講演	15:00~15:10	休憩	15:10~16:30	実践研修③	16:30	アンケートを提出し終了
9:30~10:00	受付																				
10:00~10:10	開会式																				
10:10~11:20	実践研修①																				
11:20~11:30	休憩																				
11:30~12:40	実践研修②																				
12:40~13:40	昼食・休憩																				
13:40~15:00	講演																				
15:00~15:10	休憩																				
15:10~16:30	実践研修③																				
16:30	アンケートを提出し終了																				
教材・持ち物等	こちらで用意します。																				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食は、学生食堂がありますが混雑が予想されます。 ・最寄り駅(上福岡・南古谷)より送迎バスがあります。駐車場はありますが、台数に限りがあります。 ・実践研修①②③には、質疑応答の時間が含まれます。 ・研修会終了後、情報交換会を行います。是非ご参加ください。(16:45~17:30予定/任意参加) 																				

小学校音楽科

日程	令和元年 12月26日(木)12:50~16:30、12月27日(金)10:00~15:30		
会場	名古屋音楽大学 (担当:名古屋音楽大学) (住所)453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1		
講師	テーマ①高橋裕(名古屋音楽大学特任教授)、高橋晴美(作詞・作曲・ピアニスト) テーマ②吉川範行(名古屋音楽大学特任教授)、後藤龍伸(名古屋音楽大学教授) 伊藤陽子(名古屋音楽大学非常勤講師)		
対象	小学校音楽科担当教員等	定員	50名

＜研修プログラムの内容＞	
テーマ	新学習指導要領に基づく、音楽活動の楽しさを体験する実践研修授業を研究考察する。
概要	学習指導要領の改訂に伴い、A表現(テーマ①)、B鑑賞(テーマ②)の二つの大きな柱に焦点を当て、それらに関する知識や技能を身に付け、今後の授業実践を深める研修を行う。 [学習指導要領との関連] 第3～第6学年の内容 A表現(1) B鑑賞(1) [共通事項]
内容と方法	テーマ①「合唱の授業から、人と人がひとつになる心を学ぶ」学習指導要領音楽教科の目標である、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成を研修する。 テーマ②「音にエネルギーを感じながら、オーケストラと踊ろう」学習指導要領、鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、生のオーケストラの演奏に合わせて体を動かしたり、表現したりするリミックスの研修を行う。
到達目標	学習指導要領の内容に沿った知識や技能を身に付け、学習指導案の作成を行い、実際の学校での授業で実践できることを目標とする。
スケジュール	第一日目
	12:30~12:50 受付
	12:50~13:00 開会式、ガイダンス
	13:00~14:10 実践研修 テーマ①その1
	14:10~14:40 研究討議テーマ①
	14:40~14:50 休憩
	14:50~16:00 実践研修 テーマ②その1
	16:00~16:30 研究討議テーマ②
	16:30~17:30 情報交換会(希望者)
	第二日目
	9:30~10:00 受付、ガイダンス
	10:00~11:00 実践研修テーマ①その2、指導案作成
	11:00~11:10 休憩
	11:10~12:10 実践研修テーマ②その2、指導案作成
12:10~13:00 昼食・休憩	
13:00~14:00 成果発表テーマ①	
14:00~15:00 成果発表テーマ②	
15:00~15:30 アンケート記入、閉会式	
教材・持ち物等	合唱教材「あじさいの花」教育芸術出版社刊 小学生のためのクラス合唱新曲集「僕はアスリート」掲載曲を扱います。(楽譜は事前にお送り致します。)
特記事項	良い実践研修となりますよう合唱曲の事前練習をお願い致します。

中学校美術科, 高等学校芸術科(美術)

日程	令和元年 12月 26日(木) 10:00~16:30		
会場	常葉大学 草薙キャンパス C棟4階 図画工作教室C419及びC421 (担当:常葉大学) (住所) 〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町6-1 (JR 草薙駅北口から徒歩約4分)		
講師	・合津正之助 常葉大学 造形学部(絵画・教科教育)教授 ・山本浩二 常葉大学 造形学部(工芸・教科教育)教授 ・キム・ミンジ 常葉大学造形学部(G.D・デザイン)講師 ・垂見幸哉 常葉大学 造形学部(映像・デザイン)講師 (補助アシスタント4~6名)		
対象	中学校美術科、高等学校芸術科(美術) 担当教員等	定員	50名

＜研修プログラムの内容＞	
テーマ	美術科における今日的な課題への対応を目指して(新たな題材観と授業力の向上)
概要	<p>・研修①「美術科における指導方法について」は、学習指導要領の趣旨を踏まえた中学校美術科および高等学校芸術科(美術)の意義と役割、向うべき方向性等について、授業力の向上を目指す指導方法等の具体例を提示することにより考察する。研修参加者各自が課題としての問題意識を持ち、自らがその経験事例に基づいた指導方法の活用を考えられる主体的な研修とする。</p> <p>・研修②「プログラミング的思考を役立たせるアイデアスケッチ力実践講座」は、学習指導要領において新たに導入されるプログラミング学習で想定される身に付けた資質・能力(プログラミング的思考)等の具体的な活用方法を学ぶ。研修では、その活用方法や実際に活用するために言葉だけでなく、ビジュアル・シンキングによる過程から、思考力、発想力の基礎・基本としてのアイデアスケッチ力を提案し実践することにより、指導者としての資質・能力を身に付ける研修とする。</p> <p>・研修③「プロジェクション・マッピングを活用した映像授業の提案」は、教科における新たな表現教材であり、ITC教材の活用を試みる授業の提案とその実践である。また、多様化した表現や社会的ニーズからも映像に関わる学習活動について、教材研究を含め、学習計画および運営する方法を身に付ける研修とする。</p> <p>学習指導要領との関わり: ・中学校美術科「A表現」(1)(2), [共通事項] ・高等学校芸術科(美術Ⅰ～Ⅲ)「A表現」(3), [共通事項]</p>
内容と方法	<p>・研修①:美術科における指導方法を「指導計画及び教材・授業準備」、「授業運営と活動支援、評価」、「表現領域における各活動と授業」、「鑑賞授業と[共通事項]」、「材料や用具の取り扱いに関わる事項とITC教材の活用」等の視点から示す。指導方法のポイントを各自の体験による具体的な場面へ置換し、指導方法の活用と定着を図る。</p> <p>・研修②:自分の考えやアイデアを具体的に提示するスキルとしてのスケッチ力を、様々な描画材料(IT機器を含む)で実践し身に付ける。モチーフを描くのではなく、テーマに沿ってイメージしたものを具現化するための描画方法を漫画やアニメ、イラスト等の手法から学ぶ。</p> <p>・研修③:一般的な学校における施設・備品等で実践できる映像授業を提案し実際に行う。iPad(大学で準備)を活用して映像の撮影から編集及びプロジェクション・マッピング制作(フリーソフトを使用)を個別もしくはグループによって行う。学習成果発表及び鑑賞教育の一環として、映像作品を放映し、[共通事項]としての一面も展開する。</p> <p>・施設および教材の関係から、受講生全体をAとBの2グループに分け、研修①は全体で実施し、研修②と③は、A、Bそれぞれ交互に受講する運用で実施する。</p>
到達目標	<p>・美術科における理論と実践の融合を目指し、今日的な課題の視点から新たな題材および教材を提案し、その学習活動(実践)を通して指導方法や指導上の留意点等の具体的な内容が理解できるとともに、教科書等を活用した授業へつなげられる力とする。</p> <p>・人間形成の一環であり、豊かな人間性の育成に必要とされる「美術による教育」の視点と「美術の教育」という専門性の基礎・基本としての視点から、表現と鑑賞の資質・能力を相互に関連させながら育成する美術教育を考えられるとともに、[共通事項]を理解し学習に展開できるようにする。</p> <p>・発想や構想、技能に関する資質・能力の観点から表現活動を考え、授業実践に活かそうとする主体的な指導態度と指導方法を身に付けるとともにその評価方法についても考えられるようにする。</p>
スケジュール	<p>9:30~10:00 受付</p> <p>10:00~10:15 研修の概要と目的について</p> <p>10:15~11:30 研修①「美術科における指導方法について」(具体例を含む講義)</p> <p>11:30~12:30 昼食・休憩</p> <p>12:30~14:00 研修②「プログラミング的思考を役立たせるアイデアスケッチ力実践講座」(演習)Aグループ 研修③「プロジェクション・マッピングを活用した映像授業の提案」(演習)Bグループ</p> <p>14:00~14:10 休憩</p> <p>14:10~15:40 研修②「プログラミング的思考を役立たせるアイデアスケッチ力実践講座」(演習)Bグループ 研修③「プロジェクション・マッピングを活用した映像授業の提案」(演習)Aグループ</p> <p>15:40~15:50 休憩</p> <p>15:50~16:30 ワールド・カフェ方式による研修のまとめと討議(理論と実践の融合を目指して)</p> <p>16:40~18:00 情報交流会(希望者のみ出席)</p>
教材・持ち物等	研修②は画材等を使用するため、描画材料(鉛筆数種類、消しゴム等の消し具、色鉛筆セット、デザインマーカー等のカラーペン、フェルトペン、パステルなど)として日頃使用しているものを各自持参する。但し使用する紙類やカルトン等は、研修教材として大学が用意する。また、iPad等のタブレットを描画材料として使用することも認める。
特記事項	

小学校音楽科, 中学校音楽科, 高等学校芸術科(音楽)

日程	令和元年 12月 26日(木) 10:00~16:30		
会場	宇土市民会館 (担当: 東京藝術大学) (住所) 〒869-0433 熊本県宇土市新小路町123		
講師	臼井 学 (文化庁教科調査官) 福田 栄香(生田流箏曲) 他		
対象	小学校音楽科、中学校音楽科、高等学校芸術科(音楽)担当教員等	定員	50名

＜実践研修＞プログラムの内容																					
テーマ	新学習指導要領に基づく我が国の伝統音楽を扱った授業展開の視点と方法を考える																				
概要	<p>この度改訂された新学習指導要領では、「我が国や郷土の音楽に関する学習の充実」が掲げられ、その指導にあたっては、音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲にあった歌い方など、指導方法をより一層工夫することが求められています。そこで、本研修では「口唱歌」に着目し、その特徴を学ぶこと、そして、箏の基本奏法を教員自身が体験的に学ぶことを通して、我が国や郷土の音楽を扱った授業づくりについて考えます。講師には文化庁教科調査官とプロの演奏家を迎えます。実技の習得と授業改善の視点をつなぐ、今後の指導に生きる内容です。</p> <p>〔学習指導要領との関連〕 小学校音楽科: A表現(2)、(3) B鑑賞(1)ア、イ / 中学校音楽科: A表現(2)、(3) B鑑賞(1)ア、イ / 高等学校芸術科音楽Ⅰ～Ⅲ: A表現(2)、(3) B鑑賞(1)ア、イ〔共通事項〕</p>																				
内容と方法	<p>本研修は、箏曲の実技を学ぶ【実技研修】と、授業づくりや指導方法の改善について考える【実践研修】から成ります。</p> <p>【実技研修】では、「口唱歌に親しむ」「箏の基本奏法を知る」をテーマに、我が国や郷土の音楽を授業で扱うために必要な基礎的技能と知識を学びます。</p> <p>【実践研修】では、実技研修で学んだことをふまえ、授業づくりのアイデアを学校種別のグループで検討し(①)、協議した内容を発表します(②前半)。具体的には、器楽の授業づくりを中心としながら、器楽と鑑賞、さらには、器楽と創作の往還までを視野に入れ、授業展開の視点と方法を検討します。研修の最後には、調査官から講評をいただきます(②後半)。</p>																				
到達目標	1 口唱歌の特徴を理解し、平易な曲を口唱歌で歌うことができる 2 箏曲の様式感と、その特徴をとらえることができる 3 我が国の伝統音楽を扱った授業づくりに生かせる視点と方法を考察することができる																				
スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>9:30~10:00</td> <td>受付</td> </tr> <tr> <td>10:00~12:00</td> <td>【実技研修】 口唱歌に親しむ／箏の基本奏法を知る</td> </tr> <tr> <td>12:00~13:00</td> <td>昼食・休憩</td> </tr> <tr> <td>13:00~15:00</td> <td>【実践研修①】 授業づくりに生きるアイデアを検討する (テーマ別グループ協議)</td> </tr> <tr> <td>15:00~15:15</td> <td>小休憩</td> </tr> <tr> <td>15:15~16:25</td> <td>【実践研修②】 授業に生かす視点と方法を考える</td> </tr> <tr> <td>(40分)</td> <td>〈前半〉グループ協議の内容を発表</td> </tr> <tr> <td>(30分)</td> <td>〈後半〉講評 (臼井調査官)</td> </tr> <tr> <td>16:25~16:30</td> <td>アンケート記入</td> </tr> <tr> <td>16:30</td> <td>終了</td> </tr> </table>	9:30~10:00	受付	10:00~12:00	【実技研修】 口唱歌に親しむ／箏の基本奏法を知る	12:00~13:00	昼食・休憩	13:00~15:00	【実践研修①】 授業づくりに生きるアイデアを検討する (テーマ別グループ協議)	15:00~15:15	小休憩	15:15~16:25	【実践研修②】 授業に生かす視点と方法を考える	(40分)	〈前半〉グループ協議の内容を発表	(30分)	〈後半〉講評 (臼井調査官)	16:25~16:30	アンケート記入	16:30	終了
9:30~10:00	受付																				
10:00~12:00	【実技研修】 口唱歌に親しむ／箏の基本奏法を知る																				
12:00~13:00	昼食・休憩																				
13:00~15:00	【実践研修①】 授業づくりに生きるアイデアを検討する (テーマ別グループ協議)																				
15:00~15:15	小休憩																				
15:15~16:25	【実践研修②】 授業に生かす視点と方法を考える																				
(40分)	〈前半〉グループ協議の内容を発表																				
(30分)	〈後半〉講評 (臼井調査官)																				
16:25~16:30	アンケート記入																				
16:30	終了																				
教材・持ち物等	爪・筆記用具																				
特記事項	※箏の実技研修で用いる爪は各自持参のこと。																				

中学校音楽科, 高等学校芸術科(音楽)

日程	令和2年 1月 10日(金) 12:55~16:30		
会場	長久手市文化の家 森のホール他 (住所)〒480-11愛知県長久手市野田農201		(担当:愛知県立芸術大学)
講師	福本泰之 愛知県立芸術大学音楽学部長(全体研修担当) 太田光子 リコーダー奏者、上野学園非常勤大学講師(テーマ1担当) 高山葉子 本学非常勤講師(テーマ2担当)		
対象	中学校音楽科、高等学校芸術科(音楽) 担当教員 等	定員	50名

＜研修プログラムの内容＞	
テーマ	音楽科授業における表現及び鑑賞の可能性について
概要	今回の研修では、3コマの研修を行います。1コマ目では全体研修として、表現及び鑑賞について、新学習指導要領に関連付けながら、「オーケストラを至近距離で体験する」ことを行います。学生オーケストラのリハーサルを見学し、指揮者とオーケストラによって音楽が作られている様子を体験していただき、作品の鑑賞と表現について考察し、指導方法の改善を探ってゆきます。2コマ目と3コマ目では、グループAとグループBに別れ、テーマ1(リコーダー)とテーマ2(編曲)の実践研修を行います。研修後の授業で科目の目標となる三つの柱(「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」)と〔共通事項〕(表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる資質・能力を育成する)を実現できるようにプログラムが構成されています。 〔学習指導要領との関連〕 中学校音楽科:A表現(2) B鑑賞(1) 高等学校芸術科音楽Ⅰ～Ⅲ:A表現(2) B鑑賞(1) , 〔共通事項〕
内容と方法	【全体研修】「オーケストラを至近距離で体験する」(福本泰之) 新学習指導要領に基づく表現及び鑑賞に関する資質・能力を育成するための指導についての講義を受け、その後、オーケストラのリハーサルを、客席だけではなく、ステージの近くまたステージ上の演奏者の間で、指揮者と奏者によって音楽が作られていく状況を体験します。また、器楽表現を創意工夫することや楽器の音色や響きと奏法の関わりについても至近距離で実体験しながら、指導方法の改善について考えてゆきます。なお、当日は、チャイコフスキーの幻想序曲「ロメオとジュリエット」と交響曲第5番ホ短調のリハーサルを行います。 【テーマ1】「リコーダー」(太田光子) リコーダーの奏法と合奏を指導します。また、リコーダー合奏を通し、合奏の指導方法を学びます。 【テーマ2】「編曲」(高山葉子) よく知られた楽曲を題材にして、実践的な合唱編曲やピアノ伴奏の付け方を学びます。
到達目標	研修後のご自身の音楽科授業において、表現及び鑑賞についてこれまでとは異なった指導ができるか、その可能性を探っていただければと思います。
スケジュール	12:30~12:55 :受付 12:55~13:00 :ガイダンス 13:00~14:00 :【全体研修】講義+演習「オーケストラを至近距離で体験する」(森のホール) 14:00~14:10 :休憩・会場移動 14:10~15:10 :グループA(テーマ1、光のホール)、グループB(テーマ2、音楽室) 15:10~15:20 :休憩・会場移動 15:20~16:20 :グループA(テーマ2、音楽室)、グループB(テーマ1、光のホール) 16:20~16:30 :アンケート記入
教材・持ち物等	リコーダー、五線紙、ノート、筆記用具をご用意ください。オーケストラのスコアはお持ちいただいても構いません。なお、リコーダー(ソプラノかアルトのどちらか)については、本学のホームページで発表します。
特記事項	テーマ1・テーマ2で扱う楽曲が決まり次第、本学のホームページで発表します。

小学校音楽科 ， 中学校音楽科

日程	令和2年 1月 11日(土) 13:00~16:30		
会場	大阪市立大和田小学校		(担当: 東京藝術大学)
	(住所) 〒555-0032 大阪府大阪市西淀川区大和田4丁目3-24		
講師	志民 一成 (文化庁教科調査官) 石上 則子 (東京藝術大学非常勤講師) 加藤 昌則 (作曲家)		
対象	小学校音楽科、中学校音楽科担当教員等	定員	50名

＜研修プログラムの内容＞	
テーマ	新学習指導要領に基づく音楽づくり・創作と鑑賞の指導法及び授業展開の視点や方法を工夫する
概要	<p>新学習指導要領においては、資質・能力の三つの柱に基づいて指導事項が整理され、各領域で何をできるようにするかが明らかになりました。ただし、どのように指導するのかについては、試行錯誤の状況が続いている現場も少なくないと考えます。とりわけ、音楽づくり・創作や鑑賞では「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現するかが大きな課題となっています。</p> <p>そこで本研修では、教科調査官、現場の実践に精通した研究者、第一線で活躍する作曲家を講師に迎え、それぞれの視点から、指導方法や授業づくりについて実践的な提案を行います。</p> <p>[学習指導要領との関連] 小学校音楽科: A表現(3)ア,イ,ウ B鑑賞(1)ア,イ [共通事項] 中学校音楽科: A表現(3)ア,イ,ウ B鑑賞(1)ア,イ [共通事項]</p>
内容と方法	<p>本研修は、下記の①～③の内容から構成されます。</p> <p>① 志民調査官による講話 ② 音楽づくり・創作の指導法や授業づくりについて考える研修(講義とグループ協議) ③ 作曲家に演奏家を加え、彼らの分析や解釈から曲のもつ魅力や本質を深く学ぶとともに、それらを授業づくりにどう生かしていくのかを考える鑑賞の研修(講義とグループ協議)</p> <p>なお、③の鑑賞の研修では、若手弦楽カルテットの生演奏と、作曲家による曲目解説を通して、楽曲の魅力や本質に迫ります。</p>
到達目標	<p>1 音楽づくり・創作に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、自分なりの創作表現を工夫する。 2 鑑賞教材の特徴等について理解を深めるとともに、自分や社会にとっての意味や価値を考察することができる。 3 授業改善に向けて、音楽づくり・創作の指導法や学習内容に生かせる視点と方法を考察することができる。</p>
スケジュール	<p>12:30~13:00 : 受付</p> <p>13:00~13:55 : 研修①: 調査官講話</p> <p>13:55~14:00 : 休憩</p> <p>14:00~15:10 : 研修②: 音楽づくり・創作の指導法と授業づくり(講義とグループ協議)</p> <p>15:10~15:15 : 休憩</p> <p>15:15~16:25 : 研修③: 鑑賞の指導法と授業づくり(講義とグループ協議)</p> <p>16:25~16:30 : アンケート記入</p> <p>16:30 : 終了</p>
教材・持ち物等	筆記用具
特記事項	

中学校美術科，高等学校芸術科(美術)

日程	令和2年 1月23日(木)10:45~16:30、1月24日(金)9:45~16:00		
会場	女子美術大学 杉並キャンパス		(担当:女子美術大学)
	(住所) 東京都杉並区和田 1-49-8 1号館1階 110周年記念ホール		
講師	東良雅人(文部科学省視学官)、中村美知枝(東京都立文京高等学校指導教諭) 佐藤清親(女子美術大学特別招聘教授)、戸高香織(女子美術大学アートデザイン表現学科学生)		
対象	中学校美術科、高等学校芸術科(美術、工芸)担当教員等	定員	40名

＜研修プログラムの内容＞	
テーマ	学習指導要領に基づく授業改善
概要	1月23日(木) 中学校美術科及び高等学校芸術科美術の模擬授業では、参加者を生徒に見立てた授業を体験する。研究協議やグループ討議においては、模擬授業を受けた生徒の立場から、授業改善を進める授業の組み立てについて具体的な方策等を協議する。希望参加による情報交換会を研修後に設定する。 1月24日(金) グループによる指導案の検討では、校種別に美術科・芸術科美術における主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業の指導案を分析・検討する。その後の成果発表・意見交換では、各グループの成果発表を行い、今後の自身の指導方法等について意見交換を行う。 学習指導要領との関連事項 ・中学校及び、高等学校学習指導要領 「A表現」(1)、(2)、「B鑑賞」(1)〔共通事項〕(1) ・内容の取扱いに関する記述及び学習指導要領解説 総説「改訂の経緯及び基本方針」に基づき実施する。
内容と方法	・ふだん教えている教員が、教わる立場を経験する模擬授業で授業の在り方を検討する。中学校と高等学校の題材を設定し、校種における連続性などを学ぶ。 ・研究協議では、担当官による講演で模擬授業と学習指導要領の関連についてなど確認を行う。 ・グループ討議やグループ指導案の検討・作成により、学習指導要領の内容について、実践的な授業改善に生かすことを図る。 ・各グループの提案を発表し、意見交換を行うことで参加者全員が本研修会の成果を共有する。
到達目標	・学習指導要領の趣旨を踏まえた指導方法や評価方法の工夫改善等をこれまでの題材や指導方法等の改善につなげ、中等教育の芸術教科における指導の充実が図れるようになること。
スケジュール	第1日 10:30~10:45 受付
	10:45~11:00 開会式
	11:00~13:00 模擬授業①、模擬授業②
	13:00~14:00 昼食・休憩
	14:00~15:00 講演 研究協議
	15:20~16:30 グループ討議
	※ 希望参加による情報交換会
	第2日 9:30~9:45 受付
9:45~12:30 グループによる指導案検討・中間講評	
12:30~13:30 昼食・休憩	
13:30~16:00 成果発表・意見交換・指導講評・アンケート記入等まとめ	
教材・持ち物等	筆記用具 ※その他参加者に連絡する
特記事項	宿泊に関しては、各自で手配する。 (最寄駅 東京メトロ丸の内線「東高円寺駅」)

令和元年度 芸術系教科等担当教員等 地区ブロック研修会の研修内容

【中国・四国地区】

小学校音楽科，中学校音楽科，高等学校芸術科(音楽)

日程	令和2年 1月 25日(土) 10:00~16:30		
会場	徳島文理大学 村崎ホール及び音楽学部講義室 (担当: 徳島文理大学) (住所) 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示		
講師	藤原 道山 (尺八演奏家) 松岡 貴史 (作曲家、徳島文理大学教授) 他		
対象	小学校音楽科、中学校音楽科、高等学校芸術科(音楽)担当教員等	定員	50名

＜実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	新学習指導要領に基づく「音楽づくり・創作」及び「我が国の伝統音楽」に関する授業展開の視点と方法を考える
概要	<p>小学校から高等学校に至るまで学校音楽の現場においては、音楽づくりから創作につながる系統的な指導や我が国の音楽に関する指導が大きな課題となっています。本研修では、子どもたちの音楽の学びを一層充実させるために、教師自身が「音楽的な見方・考え方」を働かせながら、音楽づくり・創作の活動に取り組むとともに、我が国の音楽の実演の鑑賞や尺八、箏の演奏体験を通して、授業改善の工夫について考えます。講師には、教員養成に長く関わっている作曲家、日本を代表する邦楽の実演家、教科教育の専門家を予定しています。</p> <p>[学習指導要領との関連] 小学校音楽科: A表現(2)、(3) B鑑賞(1)ア、イ / 中学校音楽科: A表現(2)、(3) B鑑賞(1)ア、イ / 高等学校芸術科音楽Ⅰ～Ⅲ: A表現(2)、(3) B鑑賞(1)ア、イ [共通事項]</p>
内容と方法	<p>本研修は、作曲家のもとで音楽づくり・創作の指導法や授業づくりを学ぶ研修と、実演家による鑑賞と楽器体験の研修、授業づくりや指導方法の改善について考える研修から構成されています。</p> <p>午前の「音楽づくり・創作」に関する研修では、音遊びの体験から音を音楽にしていくためのポイントを学び、構成を生かした創作や即興的な創作までチャレンジします。授業づくりでは、創作の授業そのものを「創作」することについて考えます。</p> <p>午後の「我が国の伝統音楽」に関する研修(午後①)では、尺八と箏による実演を鑑賞しながら、聴きどころや聴かせ方のポイントを学びます。また、鑑賞を深めるためにも、尺八や箏の楽器体験や基本奏法、ならびに「口唱歌」を学ぶ機会を設定します。研修全体の締め括り(午後②)として、音楽教育学や実践現場からの講師とともに、授業展開の視点と方法を検討します。</p>
到達目標	<p>1 音楽づくり・創作に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、自分なりの創作表現を工夫する。</p> <p>2 我が国の伝統音楽の様々な特徴をとらえるとともに、社会における意味や価値を考察することができる。</p> <p>3 音楽づくり・創作や我が国の伝統音楽を扱った授業づくりに生かせる視点と方法を考察することができる。</p>
スケジュール	<p>9:30～10:00 受付</p> <p>10:00～12:00 「音楽づくり・創作」の研修: 音遊びから創作へ～指導と授業づくりのポイント～</p> <p>12:00～13:00 昼食・休憩</p> <p>13:00～15:30 「我が国の伝統音楽」の研修: 鑑賞指導と楽器体験授業づくりに生きるアイデアを検討</p> <p>15:30～15:45 小休憩、移動</p> <p>15:45～16:25 授業改善の工夫: 授業に生かす視点と方法を考える</p> <p>16:25～16:30 アンケート記入</p> <p>16:30 終了</p>
教材・持ち物等	筆記用具
特記事項	

小学校図画工作科

日程	令和2年 2月 13日(木) 9:25~16:30		
会場	金沢美術工芸大学 (担当:金沢美術工芸大学) (住所)石川県金沢市小立野5丁目11番1号		
講師	講義、全体の振り返り: 岡田京子(文化庁教科調査官) 演習: 高橋治希、渋谷拓 (金沢美術工芸大学教員) 他		
対象	小学校図画工作科担当教員等	定員	50名

＜研修プログラムの内容＞	
テーマ	図画工作科が育成する資質・能力と授業づくり
概要	<p>本研修では、新学習指導要領における、図画工作科の意義・役割を再確認し、今後の授業について考える。また、高等教育の現場で先端的な造形表現や作品・資料等に触れながら、図画工作科の授業を考えることを通して、図画工作科で育成を目指す資質・能力である「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を、表現と鑑賞の授業でどのようにして育めばよいのかについて実践的に考える。表現の授業では、個人の造形とともに児童自身に教室での展示を考えさせるような、個人の特性を引き出しながら、それが全体の中で響き合う表現の授業を考える。鑑賞の授業では、講師の学芸員としての経験をもとに、対話による鑑賞教育について実際に体験もしながら、参加者の気づきを共有し、授業での取り組み方を考える。</p> <p>学習指導要領との関連 演習1は、「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ 演習2は、「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ</p>
内容と方法	<p>①講義 新学習指導要領の趣旨を踏まえた図画工作科の意義・役割と今後の方向性(仮) ②演習 小学校図画工作の題材づくりのワークショップ 全体を二つのグループに分け、交互に2種類の演習を受ける。 演習1: 表現(ものを作る創造性と空間を考える創造性を育てる授業): 高橋(油画専攻) 演習2: 鑑賞(作品のよさを味わうための対話による鑑賞): 渋谷(学芸員資格課程担当) ③振り返り ①の講義を基に②の演習について、参加者全体での振り返りを行う。</p>
到達目標	「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育む授業」について具体的に考え、理解を深めることができる。また、具体的な授業として構想できる。
スケジュール	<p>9:00~9:25 : 受付</p> <p>9:25~9:30 : 開会挨拶、事務連絡(スケジュール等の説明)</p> <p>9:30~10:00 : ①講義</p> <p>10:00~10:10 : 休憩(移動を含む)</p> <p>10:10~12:10 : ②演習</p> <p>12:10~13:00 : 休憩(移動、昼食を含む)</p> <p>13:00~15:00 : ②演習</p> <p>15:00~15:10 : 休憩(移動を含む)</p> <p>15:10~16:30 : ③全体での振り返り、アンケート記入、事務連絡、閉会挨拶</p>
教材・持ち物等	「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編」 この他の持ち物は追って参加者に通知する。
特記事項	

小学校音楽科

日程	令和2年 2月 22日(土) 10:00~16:30		
会場	エリザベト音楽大学 (担当:エリザベト音楽大学) (住所)730-0016 広島県広島市中区鞆町4-15 [JR広島駅より徒歩10分]		
講師	志民一成 文化庁教科調査官 壬生千恵子 エリザベト音楽大学 音楽文化学科 教授 (音楽教育学) 福原之織 エリザベト音楽大学 音楽文化学科 教授 (音楽科教育法・オルガン) 藤尾かの子 エリザベト音楽大学 音楽文化学科 講師 (幼児音楽教育学) 三村真弓 広島大学 大学院教育学研究科 音楽文化教育学講座 教授 (音楽教育学) 林裕美子 エリザベト音楽大学 演奏学科 教授 (声楽) 柴田美穂 エリザベト音楽大学 演奏学科 教授 (ピアノ) 志鷹美紗 エリザベト音楽大学 演奏学科 講師 (ピアノ) 寺沢希 合唱指揮者、エリザベト音楽大学非常勤講師 (合唱指導) 木原朋子 箏奏者、エリザベト音楽大学非常勤講師		
対象	小学校音楽科担当教員等	定員	50名

＜研修プログラムの内容＞	
テーマ	初等音楽教育の新たな展望と可能性
概要	<p>新学習指導要領が求める学びの像についての理解を深めるとともに、特に幼児教育から小学校低学年への連携に焦点をあてつつ、主体的に音楽と関わることも育成するためのアプローチや歌唱指導技術を学び、初等教育における音楽授業の一層の充実につながり、現場で活用できるヒントを得ていただくための講義や簡単なワークショップ、アウトリーチ実践例の紹介を行う。</p> <p>学習指導要領との関連: 小学校 第2章第6節 音楽 第2各学年の目標及び内容 【第1学年～第6学年】A表現(1)ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ) B鑑賞 (1) ア、イ 第3指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)(6)、2(1)、イ、ウ、エ、(2)(4)イ、ウ、[共通事項]</p>
内容と方法	<p>【全体研修1】講演「初等音楽教育の展望～新学習指導要領がめざす学び～」(教科調査官) 本研修会の意義と新学習指導要領が求める学びの像についての理解を深める。</p> <p>【全体研修2】シンポジウム「幼児教育から初等音楽教育へ～低学年への歌唱指導を中心に～」 全体研修1に基づき、特に幼児教育から初等教育への連携における音楽教育の現状や問題点、さらに今後の展望について、各関連領域の専門家による意見交換をおこなう。特に、今回は音楽教育の基本となる歌声に焦点をあて、「歌う」、「聴く」、「音を創る」という、音楽活動の根本を低学年で学ぶことの重要性に立ち返りたい。</p> <p>【ワークショップ】"そだてよう！こどもの歌声、歌心"(「タやけこやけ」「もみじ」「Believe」を教材にして) 教科書掲載曲を用いた講師による指導の観察と参加者の実践を通して、こどもの発声を整えていく方法、豊かな表現を引き出す指揮法、合唱への導入方法、表現力を高める適切な言葉がけのタイミングや指導言などを学ぶと共に、参加者が気づきや経験談を共有することにより、主体的な児童の歌唱音楽表現を実現するための具体的な指導スキルの向上を目指す。 講師:寺沢希(合唱指揮者)</p> <p>【実践発表】ワークショップの学びを活かした合唱発表 講師および参加者による合唱を通して、ワークショップで使用した実践方法の成果を確認する。</p> <p>【全体研修3】「これからのアウトリーチ～新しい可能性～」(レクチャーと演奏) 多様化したアウトリーチの在り方を紹介し、学校教育への取り入れ方や、新しい可能性についてふれる。その後、本研修会のテーマであり、幼少期の子どもたちへのアウトリーチの要点の一つである、「本物の音楽的『音』に触れ、感じることを目的とした実例のなかから、幾つかの演奏をとりあげ、実際に体験する。日本の音楽の楽しみ方(箏)、ダルクローズの音楽教育を活かした例、など。</p> <p>【まとめ】全研修の振り返りと総括、および意見交換をおこなう。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新学習指導要領のポイントについて理解を深め、初等音楽教育の現場に活かすヒントを得る。 2) こどもの歌声、歌心を育てるための具体的な指導スキルを実践的に学ぶ。 3) こどもと音楽との出会いを豊かにプロデュースする教育活動を目指し、共に挑戦する意欲を高める。
スケジュール	<p>9:30～10:00 :受付</p> <p>10:00～10:30 :【全体研修1】</p> <p>10:30～11:30 :【全体研修2】</p> <p>11:40～12:30 :【ワークショップ】</p> <p>12:30～13:40 :昼食・休憩</p> <p>13:40～14:00 :【ワークショップ 実践発表】</p> <p>14:10～15:30 :【全体研修3】</p> <p>15:30～15:40 :まとめ・アンケート用紙記入</p> <p>15:50～16:30 :*オプション研修(自由参加): パイプオルガン体験 (要事前申し込み)</p>
教材・持ち物等	<p>ワークショップの教材として「タやけこやけ」(小学校2年生歌唱共通教材)「もみじ」(小学校4年生歌唱共通教材)「Believe」(小学校5年生教育芸術社版教科書掲載)を使用します。ご用意が難しい方は、申し込み時にご連絡ください。昼食は各自ご用意ください。(大学周辺には飲食店やコンビニ等も多くなります。学内に食堂はございません。)</p>
特記事項	<p>ワークショップにおいては身体を動かす場面がありますので、動きやすい服装でお越しください。</p>

高等学校芸術科（書道）

日程	令和2年 3月3日(火)13:20～16:00 , 3月4日(水)9:50～16:00		
会場	福岡教育大学 美術・書道教棟 書道演習室1 (担当:福岡教育大学) (住所)福岡県宗像市赤間文教町1-1		
講師	豊口和士(文化庁教科調査官)、則行美和先生、中里将大先生		
対象	高等学校芸術科(書道)担当教員等	定員	20名

＜研修プログラムの内容＞					
テーマ	新しい教育課程と主体的・対話的で深い学びを意図した書道授業				
概要	現職教員2名による、主体的・対話的で深い学びを意図した模擬授業と研究協議、教科調査官による講話を通して、新学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容についての理解を深めるとともに、指導内容・指導方法等の工夫と改善に取り組む上で必要となる、教員としての資質・能力を養うことを目的とする。 ◇学習指導要領との関連：(書道Ⅰの場合)B鑑賞(1)ア(ア)イ(ア)(イ)(ウ)(エ)、共通事項				
内容と方法	3日<第1日目>:主体的・対話的な学びを意図した模擬授業(作品への押印と鑑賞)、研究協議 4日<第2日目>:深い学びを意図した模擬授業(鑑賞)、研究協議 教科調査官による新学習指導要領に関する講話				
到達目標	・新学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容について理解を深める。 ・新学習指導要領で求められている、指導方法等の工夫・改善に取り組む上で必要な、教員としての基本的な資質・能力を身につける。				
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>3日<第1日目></td> <td> 13:00～13:20:受付 13:20～13:30:開会挨拶、事務連絡(時程等説明)、趣旨説明 13:30～14:20:模擬授業①(則行美和先生) 14:20～14:30:休憩 14:30～15:00:授業者による模擬授業解説 15:00～15:30:模擬授業についての質疑応答、研究協議 15:30～15:50:教科調査官による指導・講評 15:50～16:00:事務連絡 </td> </tr> <tr> <td>4日<第2日目></td> <td> 9:30～9:50:受付 9:50～10:00:事務連絡(時程等説明) 10:00～10:50:模擬授業②(中里将大先生) 10:50～11:00:休憩 11:00～11:30:授業者による模擬授業解説 11:30～12:00:模擬授業についての質疑応答、研究協議 12:00～12:30:教科調査官による指導・講評 12:30～13:30:昼食・休憩 13:30～14:50:教科調査官による講話(新学習指導要領で求められる授業改善) 14:50～15:00:休憩 15:00～15:50:研究協議、意見交換 15:50～16:00:アンケート記入、事務連絡、閉会挨拶 </td> </tr> </table>	3日<第1日目>	13:00～13:20:受付 13:20～13:30:開会挨拶、事務連絡(時程等説明)、趣旨説明 13:30～14:20:模擬授業①(則行美和先生) 14:20～14:30:休憩 14:30～15:00:授業者による模擬授業解説 15:00～15:30:模擬授業についての質疑応答、研究協議 15:30～15:50:教科調査官による指導・講評 15:50～16:00:事務連絡	4日<第2日目>	9:30～9:50:受付 9:50～10:00:事務連絡(時程等説明) 10:00～10:50:模擬授業②(中里将大先生) 10:50～11:00:休憩 11:00～11:30:授業者による模擬授業解説 11:30～12:00:模擬授業についての質疑応答、研究協議 12:00～12:30:教科調査官による指導・講評 12:30～13:30:昼食・休憩 13:30～14:50:教科調査官による講話(新学習指導要領で求められる授業改善) 14:50～15:00:休憩 15:00～15:50:研究協議、意見交換 15:50～16:00:アンケート記入、事務連絡、閉会挨拶
3日<第1日目>	13:00～13:20:受付 13:20～13:30:開会挨拶、事務連絡(時程等説明)、趣旨説明 13:30～14:20:模擬授業①(則行美和先生) 14:20～14:30:休憩 14:30～15:00:授業者による模擬授業解説 15:00～15:30:模擬授業についての質疑応答、研究協議 15:30～15:50:教科調査官による指導・講評 15:50～16:00:事務連絡				
4日<第2日目>	9:30～9:50:受付 9:50～10:00:事務連絡(時程等説明) 10:00～10:50:模擬授業②(中里将大先生) 10:50～11:00:休憩 11:00～11:30:授業者による模擬授業解説 11:30～12:00:模擬授業についての質疑応答、研究協議 12:00～12:30:教科調査官による指導・講評 12:30～13:30:昼食・休憩 13:30～14:50:教科調査官による講話(新学習指導要領で求められる授業改善) 14:50～15:00:休憩 15:00～15:50:研究協議、意見交換 15:50～16:00:アンケート記入、事務連絡、閉会挨拶				
教材・持ち物等	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)解説 芸術編』				
特記事項					